FUJIFILM

BL00966-100 JA

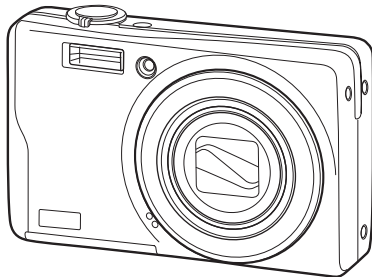
DIGITAL CAMERA

FINEPIX F70 EXR

使用説明書／ソフトウェア取扱ガイド

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この説明書には、フジフイルムデジタルカメラファインピックス F70EXR、および付属のソフトウェアの使い方がまとめられています。

内容をご理解の上、正しくご使用ください。

本製品の関連情報はホームページをご覧ください。

http://fujifilm.jp/

はじめに

カメラをお使いになる前に

次の手順にしたがって
準備してください

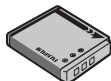
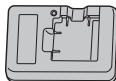
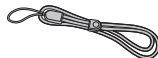
1

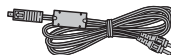
箱の中の付属品が
すべてそろっているかを
確認してください（右記）。

2

カメラを安全に使用されるために、
「お取り扱いにご注意ください」
（→ 139 ページ）を
お読みください。

本書をよくお読みの上、
カメラをお使いください。

■ 付属品一覧

充電式バッテリー
NP-50（1 個）

バッテリーチャージャー
BC-45W（1 式）

ストラップ（1 本）

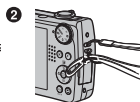
専用 USB
ケーブル（1 本）

専用 A/V
（音声 / 映像）
ケーブル（1 本）

Software for FinePix
CD-ROM（1 枚）

- 使用説明書一式
- 保証書（1 部）

ストラップの取り付け方

右のようにしてストラップを取り付けてください。

❶

このカメラの特色

EXR モード

EXR モードでは、撮影環境や目的にあわせてインテリジェントに切り換えることにより、あらゆるシーンでバランスのとれた高画質写真を撮影できます。

F70EXR に搭載されている「スーパー CCD ハニカム EXR」* では、ひとつのセンサーで［高解像度］、［ワイドダイナミックレンジ］、［ノイズの少ない高感度］の 3 つの撮像技術を実現しています。

*「スーパー CCD ハニカム EXR」は富士フイルムが開発した CCD センサーです。

■ EXR AUTO EXR オート

被写体にカメラを向けるだけで、カメラが自動で撮影シーンと最適な EXR モードを設定します。

■ HR 高解像度優先

被写体の細部までくっきりと撮影したいときに選びます。

■ SN 高感度低ノイズ優先

高感度で撮影したときに発生するノイズを軽減したいときに選びます。

■ DR ダイナミックレンジ優先

白とびを抑え、明るい部分の階調まで撮影したいときに選びます。

詳しい撮影方法については、42 ページを参照してください。

新シーンポジション

ぼかしコントロールでは、背景をぼかすことで被写体を強調した写真を楽しむことができます。

連写重ね撮りでは、画像合成して高感度でも手ブレを抑えたノイズの少ない写真を撮影できます。

詳しい撮影方法については、45、46 ページを参照してください。

本書について

この使用説明書の以下のページを開くと、お探しの情報が簡単に見つかるようになっています。

こんな時に使いたい機能一覧 ➡ P.5

カメラを使ってやりたいことがあっても、どの機能を使えばいいか分からないときに参照してください。

目次 ➡ P.8

カメラの主な機能が使用説明書のどこに記載されているかを知りたいときに参照してください。目次を見ると、使用説明書全体の流れがつかめます。

トラブルシューティング /FAQ ➡ P.113

カメラの動作がおかしいとき、思い通りの写真が撮れないときなどの原因と対処法を紹介しています。

警告表示 ➡ P.121

液晶モニターに表示される警告の意味と原因を紹介しています。

用語の解説 ➡ P.125

カメラに関する専門用語を解説しています。

撮影モードや機能の制限について ➡ P.136

撮影モードや機能ごとに使用できるメニューなどをまとめて 136 ～ 138 ページに記載しています。

索引 ➡ P.133

用語や項目名をもとに、詳しい説明の記載ページを探せます。索引は五十音順になっています。

使用可能なメモリーカードについて

このカメラでは、市販の SD メモリーカード、または SDHC メモリーカードをお使いになれます。本書では、これらのカードを「メモリーカード」と表記します。

本書で使われている記号について

- **注意**：カメラを使用するときに、故障などを防ぐために注意していただきたいことを記載しています。
- **チェック**：実際に操作するときに確認していただきたいことを記載しています。
- **メモ**：カメラを使用するにあたって知っておくと便利なこと、参考になることを記載しています。

液晶モニターのイラストについて

本書では、液晶モニターの表示を簡略化して記載しています。

こんな時に使いたい機能一覧

したいことや知りたいことから、使える機能の説明が記載されているページを探せます。

■ カメラの設定、操作について

こんなことがしたい、知りたい	キーワード	ページ
カメラの時計を合わせたい。	日時設定	P.22
カメラの時計を旅行先の現地時間に合わせたい。	世界時計	P.105
液晶モニターが自動的に消えないようにしたい。	自動電源 OFF	P.108
液晶モニターの明るさを変えたい。	モニター明るさ	P.108
シャッター音や操作音が鳴らないようにしたい。	シャッター音量、操作音量	P.103
	マナーモード	P.28
シャッターの音色を変更したい。	シャッター音	P.103
カメラ本体のボタンやダイヤルの名前を知りたい。	各部の名称	P.11
液晶モニターに表示されるアイコンの名前を知りたい。	液晶モニターの表示	P.12
カメラメニューを使いたい。	メニューを使いこなす	P.76
液晶モニターに表示される警告表示の意味を知りたい。	警告表示	P.121
バッテリーの残量がどれくらいか知りたい。	バッテリー残量について	P.24
撮影した画像を自宅のプリンターでプリントしたい。	プリンターにカメラを直接つないでプリントする	P.70
プリントサービス店で写真の印刷を注文したい。	プリントサービス店でプリントする	P.73
インターネットで写真の印刷を注文したい。		
撮影した画像をパソコンで見たい。	画像をパソコンに転送する	P.62
インターネットで撮影した画像を共有したい。	画像を Fotonoma で共有する	P.69

■ 撮影について

こんなことがしたい、知りたい	キーワード	ページ
同じメモリーカードであと何コマ撮影できるか知りたい。	撮影可能枚数	P.127
カメラに任せて簡単に撮影したい。	（オート）で撮影する	P.24
手ブレの少ない写真を撮りたい。	ブレ防止モード	P.25
人物の顔をきれいに撮りたい。	顔キレイナビで撮影する	P.30
状況に合ったモードを選んで撮影したい。	SP シーンポジション	P.45
撮影シーンの認識から設定までカメラに任せて撮影したい。	EXR AUTO（EXR オート）	P.43
優先する画質の指標を選んで撮影したい。	HR、SN、DR（EXR 優先モード）	P.42
被写体に近づいて撮影（近距離撮影）したい。	近距離撮影する	P.36
暗い場所でもフラッシュを使わずに撮影したい。	フラッシュ撮影する	P.37
人物の赤目現象が起きないように撮影したい。		
明るい場所でも、フラッシュを必ず光らせたい。		
連続撮影したい。	連写	P.85
ピントを合わせるときに発光する AF 補助光を光らせないようにしたい。	AF 補助光	P.33
集合写真に自分も写りたい。	セルフタイマーを使って撮影する	P.39
画面の中央にいない被写体にピントを合わせたい。	AF/AE ロック撮影する	P.32
シャッタースピードや絞り値を自分で操作したい。	**P**、**A**、**M** モード	P.48
画像の明るさを変えたい。	露出補正	P.34
写真の色味を変えて撮影したい。	フィルムシミュレーション	P.79
動画を撮影したい。	動画を撮影する	P.58

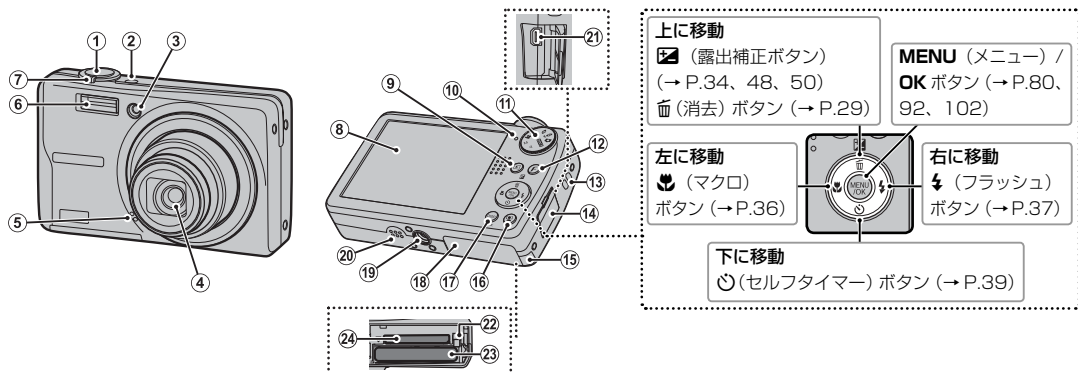
■ 再生について

こんなことがしたい、知りたい	キーワード	ページ
撮影した画像をすぐ確認したい。	1 コマ再生する	P.52
簡単操作で画像を 1 コマ削除したい。	消去ボタンで画像を消去する	P.29
画像を 1 コマまたはすべて消去したい。	画像を消去する	P.56
画像を拡大して見たい。	再生ズーム	P.53
複数の画像を一度に見たい。	マルチ再生する	P.54
特定の日に撮影した画像だけ見たい。	日付再生する	P.55
大事な画像を間違えて消去しないように保護したい。	プロテクト	P.96
液晶モニターにアイコンが表示されないようにしたい。	**DISP/BACK** ボタン	P.52
画像のスライドショー形式で再生したい。	スライドショー	P.91
画像に音声を入れたい。	ボイスメモ	P.100
画像の必要な部分だけを切り抜きたい。	トリミング	P.97
画像のサイズを小さくしたい。	リサイズ	P.98
内蔵メモリー内の画像をメモリーカードにコピーしたい。	画像コピー	P.98
画像をテレビで見たい。	画像をテレビで見る	P.61

目次

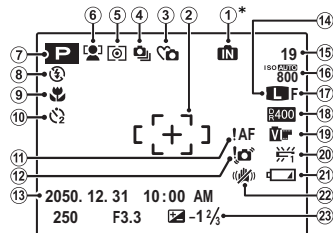
はじめに

各部の名称

使い方や説明については、各項目の右側に記載されているページを参照してください。

1 シャッターボタン........................P.27
2 **ON/OFF**（電源）ボタン ...P.21、24
3 AF 補助光ランプ / セルフタイマーランプ......P.33、40
4 レンズ / レンズカバー
5 マイク.....................................P.100
6 フラッシュ P.37
7 ズームレバー ....P.26、53
8 液晶モニター（LCD）.................P.12
9 （再生）ボタン...........P.29、52
10 インジケーターランプ...............P.28
11 モードダイヤル P.13
12 フォトモード（*F*）ボタン ....P.76、89
13 ストラップ取り付け部..................P.2
14 端子カバー ....P.61、68、70
15 DC カプラー用ケーブルカバー P.112
16 顔キレイナビボタン ...P.30、53
17 **DISP**（表示）/**BACK**（戻る）ボタン ....P.26、52
18 バッテリーカバー.............P.16、18
19 三脚用ねじ穴
20 スピーカー ....P.60、101
21 USB・A/V OUT（音声 / 映像出力）兼用端子....................P.61、68、70
22 バッテリー取り外しつまみ ....P.16、17
23 バッテリー挿入部.......................P.16
24 メモリーカードスロット P.18

液晶モニターの表示

撮影時および再生時には、液晶モニターに次の情報が表示されます。

■ 静止画撮影時

* IN はメモリーカードがカメラに入っていないときに、撮影した画像がカメラの内蔵メモリーに記録されることを示します。

No.	表示	参照
1	内蔵メモリー *	
2	AF フレーム	P.27
3	マナーモード	P.28
4	連写	P.85
5	測光	P.87
6	顔キレイナビ	P.30
7	撮影モード	P.41
8	フラッシュ	P.37
9	マクロ（近距離）	P.36
10	セルフタイマー	P.39
11	AF 警告	P.27
12	手ブレ警告	P.37
13	日付・時刻	P.22
14	画像サイズ	P.78
15	撮影可能枚数	P.127
16	感度	P.78
17	画質モード	P.83
18	ダイナミックレンジ	P.83
19	フィルムシミュレーション	P.79
20	ホワイトバランス	P.84
21	バッテリー残量表示	P.24
22	ブレ防止	P.25
23	露出補正	P.34

■ 再生時

No.	表示	参照
1	プレゼント	P.52
2	マナーモード	P.28
3	美肌モード	P.47
4	赤目補正	P.94
5	顔キレイナビ	P.30、53
6	再生モード	P.29、52
7	プロテクト	P.96
8	プリント予約	P.74
9	ボイスメモ	P.100
10	コマ NO.	P.107
11	ダイナミックレンジ	P.83
12	EXR モード	P.42

モードダイヤル

モードを切り換えるときは、モードダイヤルを回して、使用するモードのアイコン（絵文字）を指標に合わせます。

P プログラム（P.49）
絞りとシャッタースピード以外を撮影者が設定できます。絞り優先で撮影する **A** モードでも撮影できます（→ P.50）。

EXR モード（P.42）
優先する画質の指標を選んで撮影できます。カメラが撮影シーンに合わせて、自動で最適な状態を設定するオートモードも選べます。

オート（P.24）
カメラまかせの簡単操作できれいな写真が撮影できます。

高感度 2 枚撮り（P.44）
フラッシュ非発光 / 発光で連続 2 枚撮影して、光の調整が難しいシーンでの失敗を防ぎます。

M マニュアル（P.48）
絞りとシャッタースピードを撮影者が設定できます。

動画（P.58）
音声付きの Motion-JPEG 形式の動画を撮影できます。

SP シーンポジション（P.45）
いろいろな撮影シーンに合わせて、カメラの設定を最適な状態にするシーンポジションを選択できます。

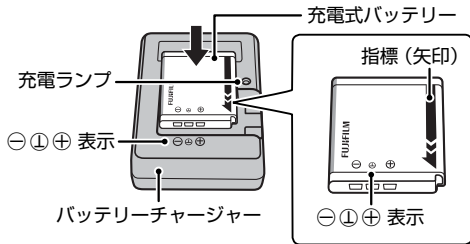
ナチュラルフォト（P.44）
暗い場面でも、目で見たままの雰囲気を活かした自然な写真になります。

バッテリーを充電する

ご購入時にはバッテリーは充電されていません。カメラをお使いになる前に付属のバッテリーチャージャーでバッテリーを充電してください。

お客様がお使いのバッテリーは NP-50 です。

1 バッテリーをバッテリーチャージャーに取り付けます。

⊖Ⓣ⊕ 表示に従って、下図の方向で正しくセットしてください。

2 電源プラグをコンセントに差し込みます。

充電ランプが点灯して、充電を開始します。

充電ランプの表示

充電ランプの表示により、バッテリーの状態を確認できます。

充電ランプ	バッテリーの状態	対処
消灯	バッテリー未装着	充電するバッテリーを装着してください
	フル充電（充電終了）	バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください
点灯	充電中	—
点滅	バッテリー異常	電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください

3 充電が終了すると、充電ランプは消灯します。

バッテリーについてのご注意

- 工場出荷時にバッテリーはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
- バッテリーにラベルなどをはらないでください。カメラから取り出せなくなることがあります。
- バッテリーの端子同士を接触（ショート）させないでください。発熱して危険です。
- バッテリーについてのご注意は「お取り扱いにご注意ください」(→ 139 ページ) を参照してください。
- 必ず専用の充電式バッテリーをお使いください。弊社専用品以外の充電式バッテリーをお使いになると故障の原因になることがあります。
- 外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- バッテリーは使わなくても少しずつ放電しています。撮影の直前（1 ～ 2 日前）には、バッテリーを充電してください。

バッテリーの寿命について

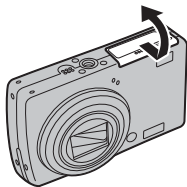
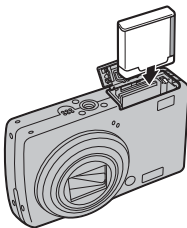
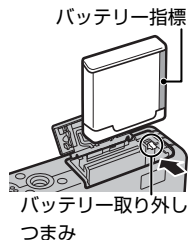
使用できる時間が著しく短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

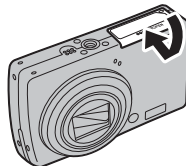
バッテリーチャージャーについてのご注意

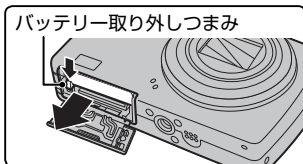
- バッテリーチャージャーを使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 充電前に、バッテリーの端子の汚れを乾いたきれいな布などで拭いてください。端子が汚れていると、充電できないことがあります。
- 低温時は充電時間が長くなることがあります。

バッテリーを入れる

バッテリーを充電したら、カメラにバッテリーを入れます。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認して、バッテリーカバーを開けます。

2 バッテリーを入れます。

- 金色の端子を下にして、カメラのバッテリー取り外しつまみ（オレンジ色）にバッテリーのバッテリー指標（オレンジ色）を合わせます。

- バッテリー取り外しつまみをバッテリーで押すようにして、バッテリーを入れます。
- バッテリーがしっかり固定されていることを確認してください。

3 バッテリーカバーを閉めます。

バッテリーを取り出すときは

カメラの電源をオフにしてからバッテリーカバーを開け、バッテリー取り外しつまみを指で動かしてロックを外してください。

メモ：AC アダプターについて

- このカメラは、別売の AC パワーアダプターと DC カプラーと組み合わせて電源を供給することもできます。使い方については、それぞれに付属の使用説明書を参照してください。
- AC パワーアダプターで電源供給時、電源をオンするとデモモード再生開始のメッセージが表示されます。設定するとスライドショーが再生されます。キャンセルする場合はシャッターボタンを押してください。

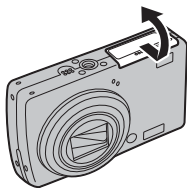
バッテリー挿入時のご注意

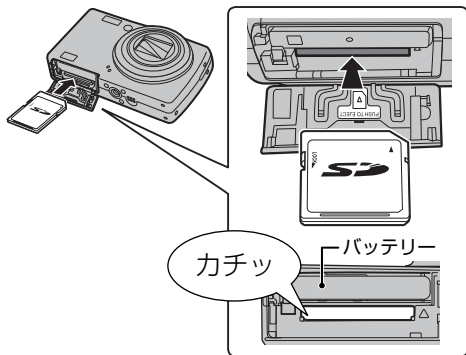
- **バッテリーカバーが閉まらないときは、無理に閉めずにバッテリーの挿入方向を確認してください。**
- カメラの電源がオンになっているときは、バッテリーカバーを開けないでください。画像ファイルやメモリーカードが壊れることがあります。
- バッテリーカバーに無理な力を加えないでください。
- バッテリーの向きを間違えると、カメラが破損するおそれがあります。正しい向きで挿入してください。

撮影の準備

メモリーカードを入れる

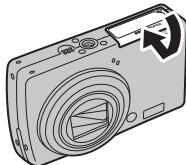
撮影した画像は、内蔵メモリーまたは市販の SD メモリーカード /SDHC メモリーカードのどちらかに記録されます。

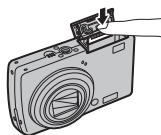
1 カメラの電源がオフになっていることを確認して、バッテリーカバーを開けます。

2 メモリーカードを入れます。

図のように正しい向きで、カチッと音がするまでメモリーカードを確実に奥まで差し込みます。

メモリーカード挿入時のご注意

メモリーカードの向きが正しいことを確認してください。斜めに差し込んだり、無理な力を加えたりしないでください。

撮影の準備

3 バッテリーカバーを閉めます。

メモリーカードを取り出すときは

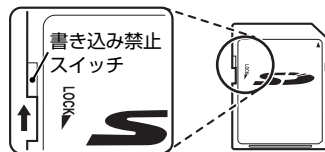
カメラの電源がオフになっていることを確認して、メモリーカードを指で押し込み、ゆっくり指を戻すと、ロックが外れて取り出せます。

注意

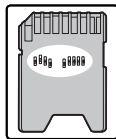
メモリーカードを取り出すときに、押し込んだ指を急に放すと、メモリーカードが飛び出すことがあります。指は静かに放してください。

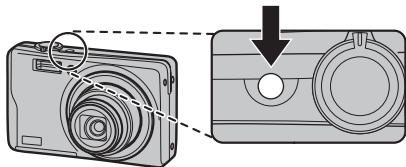
■ 使用可能なメモリーカード

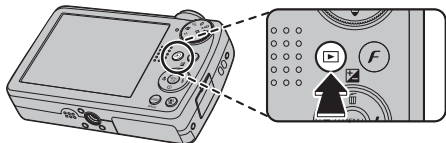
- このカメラでは、弊社および SanDisk 社製の SD/SDHC メモリーカードの使用をおすすめします。
- 今後の対応メモリーカードについては、富士フイルムのホームページに掲載しています。詳しくは http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/ を参照してください。その他のメモリーカードについては、動作保証しておりません。また、xD- ピクチャーカード、マルチメディアカードには対応していません。

メモリーカードについてのご注意

- **メモリーカードのフォーマット中や、データの記録 / 消去中は、カメラの電源をオフにしたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。カード損傷の原因になることがあります。**
- SD/SDHC メモリーカードをカメラに入れるときは、書き込み禁止スイッチのロックを解除してください。書き込み禁止スイッチを LOCK 側へスライドさせると、画像の記録や消去、カードのフォーマットができなくなります。

- 未使用の SD/SDHC メモリーカードや、パソコンやその他の機器で使用した SD/SDHC メモリーカードは、必ずカメラでフォーマット（→ 106 ページ）してからご使用ください。
- メモリーカードは小さいため、乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万が一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- miniSD アダプターや microSD アダプターの中には、アダプター裏面に金属端子が露出しているものがあります。このようなアダプターをお使いになると、異常接触となる恐れがあり、動作不良や故障の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

  また、外形寸法が SD メモリーカード規格から外れている miniSD アダプターや microSD アダプターを使うと、まれに抜けなくなることがあります。その場合、無理に抜こうとすると故障につながりますので、富士フイルム修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
- メモリーカードにラベルなどを貼らないでください。はがれたラベルが、カメラの誤動作の原因になることがあります。
- SD メモリーカードの種類によっては、動画の記録が中断されることがあります。
- カメラを修理すると、内蔵メモリーのデータが消えたり、壊れたりすることがあります。また、修理技術者が、修理中に内蔵メモリーの画像を見ることがあります。
- カメラでメモリーカードや内蔵メモリーをフォーマットすると、画像を保存するフォルダが作られます。このフォルダの名前を変更したり、削除したりしないでください。また、パソコンやその他の機器で、画像ファイルの編集 / 削除または名前変更をしないでください。メモリーカードや内蔵メモリー内の画像の削除は、必ずカメラで行ってください。画像の編集や名前変更をするときは、カメラのオリジナル画像を使わないでください。パソコンなどに画像をコピーし、コピーした画像で編集や名前変更をしてください。

電源をオンにする / オフにする

ON/OFF（電源）ボタンを押すと、電源がオンになります。もう一度押すと、電源がオフになります。

再生モードで電源をオンにするには

▶（再生）ボタンを長押しすると、再生モードで電源がオンになります。

再生中に **ON/OFF**（電源）ボタンを押すと電源がオフになります。

メモ：撮影と再生の切り換え

- 撮影中に ▶（再生）ボタンを押すと、再生モードになります。
- 再生中にシャッターボタンを半押しすると、撮影モードになります。

メモ：自動電源 OFF

一定時間カメラを操作しないと、自動的にカメラの電源がオフになります。セットアップメニューの **自動電源 OFF**(→ 108 ページ) では、自動的に電源がオフになるまでの時間を設定できます。

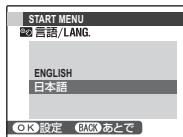
注意

- **ON/OFF**（電源）ボタンを押すと、レンズ部が繰り出します。誤作動や故障の原因になりますので、レンズ部を手で押さえないようにしてください。
- レンズに指紋が付かないようにご注意ください。撮影画像の画質低下の原因になります。
- **ON/OFF**（電源）ボタンの操作では、電源供給を完全には遮断しません。

使用する言語と日時を設定する

ご購入後初めて電源をオンにしたときは、使用する言語と日時が設定されていません。次の手順で使用する言語を選び、日時を設定します。また、パフォーマンス設定を選択することもできます。

1 電源をオンにします。

言語設定画面が表示されます。

2 使用する言語を選択します。

3 **MENU/OK** ボタンを押します。

言語が設定され、日時設定画面が表示されます。

4 年、月、日、時、分を設定します。

◀▶ で設定する項目 (年、月、日、時、分) を選択できます。

▲▼ で設定する数字を変更できます。

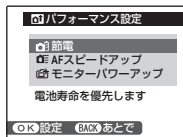
5 **年 . 月 . 日**を選択します。

選択できる並び順が表示されます。

6 **年 . 月 . 日、月 / 日 / 年、日 . 月 . 年**から並び順を選択します。

撮影の準備

7 **MENU/OK** ボタンを押します。

日時が設定され、パフォーマンス設定画面が表示されます。

8 パフォーマンス設定を選択します。

節電：消費電力を抑えるため、バッテリーを長持ちさせられます。

AF スピードアップ：ピント合わせの時間が短くなり、すばやく撮影できます。

モニターパワーアップ：液晶モニターが明るくなり、なめらかで見やすい表示になります。

9 **MENU/OK** ボタンを押します。

設定が終了して、撮影を開始できます。

チェック

言語や日時の設定をやり直したい場合は、セットアップメニューで再設定できます（→ 102 ページ）。

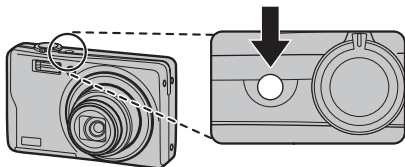
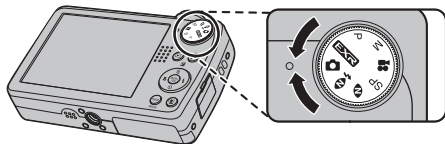
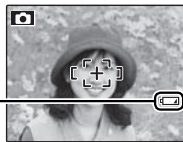
メモ：カメラの時計

バッテリーを取り外して長期間保管したときも **言語/LANG.** と **日時設定**および **パフォーマンス**がクリアされ確認画面が表示されます。別売の AC パワーアダプターと DC カプラーを接続、またはバッテリーを入れて約 4 日以上経過していれば、カメラから取り外しても、約 7 日保持されます。

（オート）で撮影する

ここでは、撮影の基本的な流れを説明します。 以外の撮影モードに切り換える方法については、41 ページを参照してください。

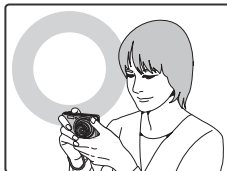
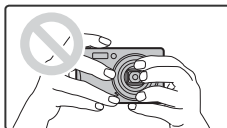
カメラの電源をオンにする

1 ON/OFF（電源）ボタンを押して、カメラの電源をオンにします。

2 モードダイヤルを に合わせます。

3 バッテリー残量を確認します。
バッテリー残量を液晶モニターで確認します。

バッテリー残量

表示	意味
（白点灯）	バッテリーの残量は十分にあります。
（白点灯）	バッテリーの残量は約半分以下です。
（赤点灯）	バッテリーの残量が不足しています。できるだけ早く充電してください。
（赤点滅）	バッテリー残量がありません。カメラの電源をオフにして、バッテリーを充電してください。

カメラを構えて、構図を決める

1 カメラを構えます。

- 手ブレを防ぐため、脇をしめ、カメラを両手でしっかりと持ってください。

- レンズやフラッシュに指などがかかると、ピンぼけや暗い写真になることがあります。ご注意ください。

2 構図を決めます。

- 被写体の中心を液晶モニターの AF フレームに合わせ、構図を決めます。
- このカメラは光学ズームを装備しています。ズームレバーを回して、構図を調整します。

ブレ防止モード

本機では、暗い場所でも手ブレや被写体ブレを軽減し、ノイズを抑えた高感度により背景まで明るく撮影できます。

セットアップメニューの **ブレ防止モード**で、**1 常時**または **2 撮影時**、**OFF** を選択できます（→ 102 ページ）。

チェック

三脚使用時は **ブレ防止モード**を **OFF** にすることをおすすめします。

注意

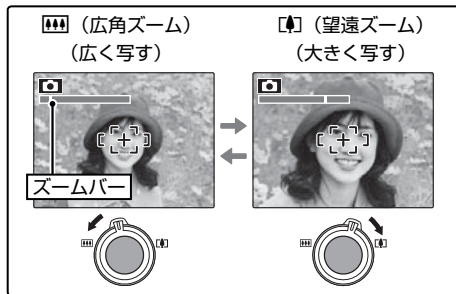
シーンによっては、ブレが残ることがあります。

基本的な撮影と再生

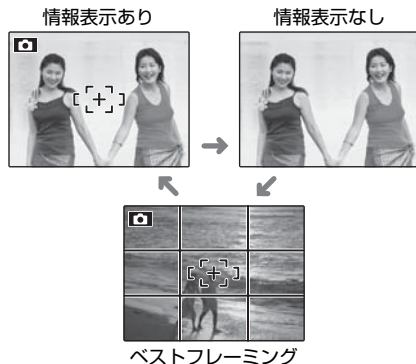
ズームを使うには

ズームレバーを操作すると、ズームが作動して被写体の大きさを変えることができます。

広い範囲を写したいときは [W] 方向、被写体を大きく写したいときは [T] 方向に、ズームレバーを回してください。

ズームレバーの位置でズームの動きを速くしたり遅くしたりできます。

セットアップメニューの **デジタルズーム**を **ON** にすると、被写体をさらに大きく撮影できます（→ 109 ページ）。

フレーミングガイドを使う

撮影時に **DISP/BACK** ボタンを押すごとに、液晶モニターの表示が次のように切り替わります。

・**ベストフレーミング**：ベストフレーミングを使うと、縦横にガイド線が表示され、構図が決めやすくなります。

注意

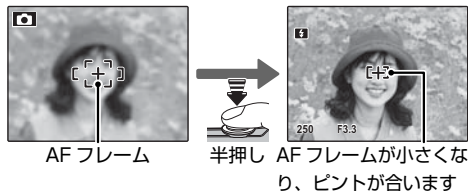
被写体を画面の中央に配置しないときは、必ず AF/AE ロック（→ 32 ページ）を使ってください。AF/AE ロックをしないと、被写体にピントが合わないことがあります。

ピントを合わせて撮影する

1 シャッターボタンを半押しして、AF フレーム内の被写体にピントを合わせます。

AF フレーム

半押し

AF フレームが小さくなり、ピントが合います

ピントが合ったとき

ピピッと音が鳴り、インジケーターランプが緑色に点灯します。

ピントが合わないとき

AF フレームが赤色に変わり、**!AF** が液晶モニターに表示され、インジケーターランプが緑色点滅します。構図を変えるか、AF/AE ロックを使ってください (→ 32 ページ)。

☛ チェック

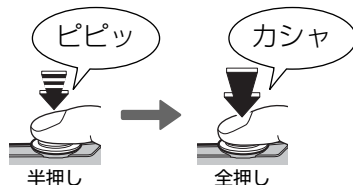
シャッターボタンを半押しすると、レンズ動作音が発生します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込みます（全押しします）。

写真が撮影されます。

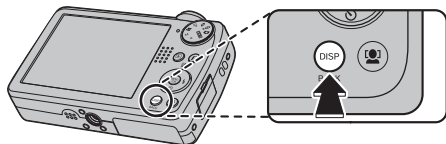
シャッターボタンの半押しと全押しについて

シャッターボタンを軽く押して、そのまま指を動かさないでいることを「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しすると、ピントと明るさが決まります。

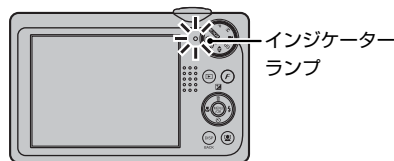
指を放さずにさらに深く押し込む（全押しする）と、写真を撮影できます。シャッターボタンを押すときは、カメラが動いて手ブレが起きないように、静かに押し込んでください。

☛ チェック

暗い場所では、シャッターボタンを全押ししたときに、フラッシュが発光することがあります。フラッシュが発光しないようにフラッシュの設定を変更できます（→ 37 ページ）。

マナーモード

フラッシュ光やシャッター音などを避けたい状況での撮影には「マナーモード」を使います。マナーモードは、**DISP/BACK** ボタンを長押しして設定します。

マナーモードに設定すると、フラッシュと AF 補助光が発光禁止になり（撮影モード を除く）、操作音やシャッター音、動画やボイスメモの再生音が OFF になります。セルフタイマーランプも発光しません。

- マナーモードに設定すると、液晶モニターに が表示されます。
- もう一度 **DISP/BACK** ボタンを長押しすると、マナーモードが解除されます。
- フラッシュ設定（→ 37 ページ）や音量（→ 103 ページ）を変更したいときは、まずマナーモードを解除してください。
- 動画やボイスメモ再生中は、マナーモードは設定できません。
- マナーモードはセットアップメニューからも設定・解除ができます（→ 102 ページ）。

インジケーターランプ

インジケーターランプの色や点灯 / 点滅で、カメラの状態がわかります。

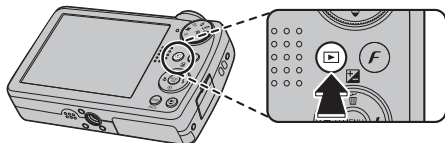
インジケーターランプ	カメラの状態
緑色点灯	被写体にピントが合っています。
緑色点滅	手ブレ警告、AF 警告、AE 警告です（撮影できます）。
緑と橙色の交互点滅	メモリーカードまたは内蔵メモリーに画像を記録しています（続けて撮影できます）。
橙色点灯	メモリーカードまたは内蔵メモリーに画像を記録しています（撮影できません）。
橙色点滅	フラッシュ充電中です（フラッシュは発光しません）。
赤色点滅	画像記録異常、またはレンズ異常です。

メモ : 警告表示について

液晶モニターにも、警告表示が表示されます。詳細は 121 ページを参照してください。

撮影した画像を見る

撮影した写真は、液晶モニターで再生できます。大切な写真を撮る前には、試し撮りをして、確認しましょう。

1 ▶（再生）ボタンを押します。

最後に撮影した画像を右のように液晶モニターいっぱいに表示します。

2 ◀ または ▶ を押して、見たい画像を選びます。

◀：前の画像が表示されます。

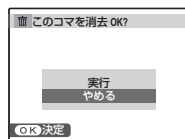
▶：次の画像が表示されます。

チェック

シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

不要な画像を消去するには

消去したい画像が表示されているときに、🗑（▲）ボタンを押します。

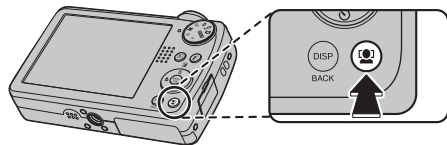
- 確認画面が表示されます。**実行**を選んで、**MENU/OK** ボタンを押します。
- 削除するのをやめたい場合は、**やめる**を選んで、**MENU/OK** ボタンを押してください。

メモ：消去

メニュー操作でも画像を消去できます（→ 56 ページ）。

顔キレイナビで撮影する

顔キレイナビを使うと、カメラが人物の顔を検出し、背景よりも顔にピントと明るさを合わせ、人物を明るく目立つように撮影できます。人物が左右に並んでいるときなど、背景にピントが合いがちなシーンでの撮影に適しています。また、赤目（フラッシュ発光によって瞳が赤くなる現象）も補正できます。

1 顔キレイナビを設定します。

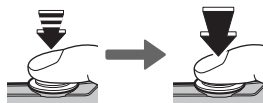
（顔キレイナビ）ボタンを押すたびに、設定が切り替わります。顔キレイナビが ON のときには、撮影画面に が表示されます。

チェック

赤目補正を行なう場合は、セットアップメニューで赤目補正を ON に設定してください（→ 102 ページ）。

2 被写体に合わせて構図を決めます。

人物の顔の上に緑色の枠が表示されます。

カメラが複数の顔を検出した場合、中央付近の顔の上に緑色の枠が、その他の顔の上に白い枠が表示されます。

3 撮影します。

緑色の枠内の顔にピントと明るさを合わせて撮影します。

注意

- 縦位置撮影時も顔を検出できます。
- 顔が検出されない場合（→ 116 ページ）は、シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニターの中央にピントが合います。
- 顔が検出できないときは、赤目補正されません。
- 撮影の直前に被写体やカメラが動いたときは、緑色の枠の位置から顔がずれて写ることがあります。
- 顔を検出する人数が多い場合は、処理に時間がかかることがあります。
- 各撮影モードでピントは人物の顔に合いますが、モード設定に応じた明るさになるため、人物の顔が適正な明るさにならないことがあります。

メモ：補正前画像記録

セットアップメニューの **補正前画像記録**では、赤目補正前の画像も同時に記録するように設定できます（→ 104 ページ）。

顔キレイナビについて

顔キレイナビを使うと、一人旅などでセルフタイマーを使った自分撮りができます（→ 40 ページ）。

顔キレイナビで撮影した画像は、再生時に顔の部分を拡大して表示できます（→ 53 ページ）。

さらに、次のような機能も使えます。

- 赤目補正（→ 94 ページ）
- スライドショー（→ 91 ページ）
- プリント予約（DPOF）（→ 74 ページ）
- トリミング（→ 97 ページ）

AF/AE ロック撮影する

静止画撮影時にシャッターボタンを半押しすると、ピントと明るさが決まります。そのまま半押しを続けて、ピントを固定することを「AF ロック」、明るさを決めて固定することを「AE ロック」といいます。被写体を画面の中央以外に配置して撮影したいときに便利です。

1 ピントを合わせたい被写体に AF フレームを合わせます。

2 シャッターボタンを半押しします。
被写体にピントが合い、インジケーターランプが緑点灯します。

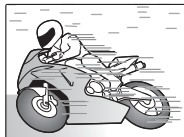
☛ **チェック**
シャッターをきる前なら、AF/AE ロックは何度でもやり直せます。

3 半押ししたまま構図を変えます。
被写体との距離は変えないでください。

4 そのままシャッターボタンを全押しして、撮影します。

オートフォーカスの苦手な被写体について

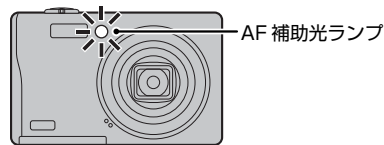
このカメラは精密なオートフォーカス機構を搭載していますが、次のような被写体や条件の場合、ピントが合いにくいことがあります。

鏡や車のボディなど光沢のあるもの

高速で移動する被写体

その他のオートフォーカスの苦手な被写体：

- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮などの暗い色で、光を反射せずに吸収するもの
- 煙や炎などの実体のないもの
- 背景との明暗差が少ないもの（背景と同色の服を着ている人物など）
- AF フレーム内にコントラスト差が大きいものがあり、その前か後ろに被写体がある場合（コントラストの強い背景の前の被写体など）

このようなときは、AF/AE ロック機能（→ 32 ページ）をお使いください。

AF 補助光について

AF 補助光は、暗い被写体のピントを合わせやすくするための光です。シャッターボタンを半押ししてからピントが合うまでの間、発光します。

チェック

- AF 補助光を発光しないようにするには、セットアップメニューの **AF 補助光**（→ 104 ページ）を **OFF** にします。
- マナーモードでは、AF 補助光は発光しません。

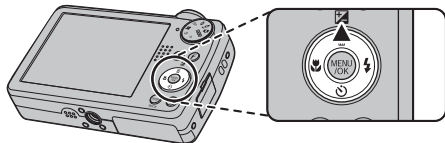
注意

- シーンによっては、発光してもピントが合いづらいことがあります。
- マクロ撮影など、被写体に近づいた撮影では、AF 補助光の効果が十分に得られない場合があります。
- 人の目に近づけて発光させないでください。

いろいろな撮影

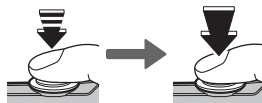
画像の明るさを変える（露出補正）

画像の明るさを調整できます。被写体が明るすぎたり、暗すぎたり、被写体と背景のコントラスト（明暗の差）が大きい場合に使います。

1 （▲）露出補正ボタンを押します。

露出の設定画面が表示されます。

2 露出を補正します。

3 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

4 撮影します。

露出補正の目安

- **逆光の人物撮影：**
  +2/3EV ～ +1 2/3EV

- **スキー場などの反射が強く明るい場所：**+1 EV

- **画像の大部分を空が占める場合：**+1 EV
- **スポットライトを浴びた被写体、特に背景が暗い場合：**
  － 2/3EV
- **常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合：**
  － 2/3EV

チェック

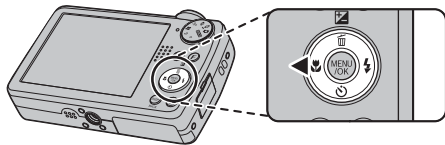
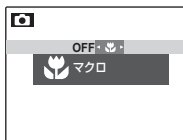
「EV」とは→ 125 ページ

チェック

- 露出補正を± 0 以外に設定すると、液晶モニターに が表示されます。
- 設定した露出補正値は、カメラの電源をオフにした後も保持されます。露出補正を解除するには、± 0 に設定してください。

近距離撮影する（マクロ）

被写体に近づいて大きく撮影したいときに使います。

1 （◀）ボタンを押してマクロ設定画面を表示します。

2 を選びます。

3 構図を決めてピントを合わせます。

チェック

ズームレバーを使うと、構図を調整できます（→ 26 ページ）。

4 撮影します。

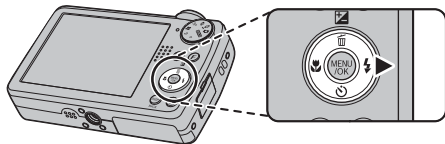
マクロを解除するにはマクロ設定画面で OFF に設定します。カメラの電源をオフにしたときや撮影モードを切り換えたときも、マクロが解除されます。

チェック

- マクロ撮影時は手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
- マクロ撮影時には、ピントは中央付近に固定されます。
- ワイド端に近づきすぎてフラッシュ撮影すると、レンズの影が映ることがあります。その場合は、被写体との距離を少し離して拡大してください。

⚡ フラッシュ撮影する（スーパーｉフラッシュ）

夜や暗い室内で撮影をするときは、フラッシュをお使いください。

1 ⚡（▶）ボタンを押して、フラッシュ設定画面を表示します。

フラッシュ設定	説明
AUTO（オートフラッシュ、表示なし）	ほとんどの状況に適しています。カメラが暗いと判断したときにフラッシュが発光します。
⚡（強制発光フラッシュ）	逆光で被写体が暗くなっているときに使います。周囲の明るさにかかわらず、フラッシュが発光します。
Ⓢ（フラッシュ発光禁止）	フラッシュ撮影が禁止されている場所などでの撮影に適しています。被写体が暗いときでも、フラッシュを発光しません。暗いときは三脚の使用をおすすめします。
S⚡（スローシンクロ）	夜景と人物の両方をきれいに撮影できます。明るい場所では露出オーバーになることがあります。

2 フラッシュの設定を選びます。

3 構図を決めてピントを合わせます。

☛ チェック

- フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに ⚡ が表示されます。
- シャッタースピードが遅く、手ぶれしやすい状態では、液晶モニターに ！📷 が表示されます 。フラッシュ設定を Ⓢ 以外にするか、三脚をご使用ください。

4 撮影します。

☛ チェック

フラッシュは予備発光と本発光で数回発光します。撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。

メモ：スーパー i フラッシュとは

このカメラは、被写体の位置とカメラとの距離、明るさなどを瞬時に計算して、最適な発光量と感度を自動的に調整する「スーパー i フラッシュ」を搭載しています。薄暗い室内などでも人物の白とびや背景の黒つぶれを防ぎ、目で見たままに美しく撮影できます。

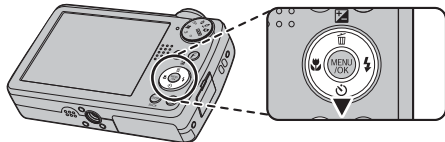
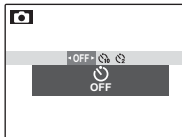
顔キレイナビ ON、赤目補正 ON のときのフラッシュ設定について

セットアップメニューで赤目補正を ON（→ 104 ページ）にして、顔キレイナビを ON に設定（→ 30 ページ）した場合、フラッシュ発光時には必ず赤目軽減を行ないます。そのため、フラッシュは、AUTO（赤目軽減オートフラッシュ）、（赤目軽減＋強制発光フラッシュ）、SLOW（赤目軽減＋スローシンクロ）から設定できます。

AUTO（赤目軽減オートフラッシュ）は、人物を撮影するのに適しています。暗い場所でフラッシュ撮影したときに、フラッシュの光が目の中で反射することにより瞳が赤く写る「赤目現象」を軽減します。

セルフタイマーを使って撮影する

このカメラは、撮影者を含めた集合写真に適した「10秒後撮影」と、シャッターボタンを押すときにカメラが動くのを防ぐ「2秒後撮影」の2種類のセルフタイマーを搭載しています。セルフタイマーは、すべての撮影モードで使えます。

1 （▼）を押して、セルフタイマー設定画面を表示します。

2 セルフタイマーの設定を選びます。

OFF：セルフタイマー OFF
10：10秒後撮影
2：2秒後撮影

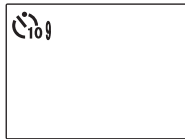
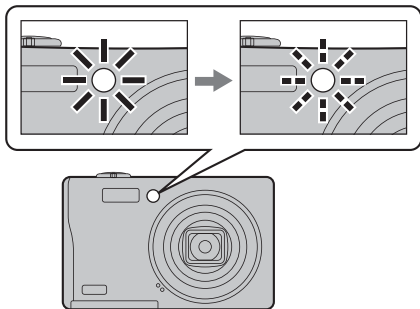
3 構図を決めてピントを合わせます。

4 セルフタイマーを開始します。

シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーがスタートします。液晶モニターには、シャッターが切れるまでの秒数が表示されます。

タイマーを途中で止めるには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

注意

シャッターボタンを押すときは、レンズの前に立たないでください。ピントが合わなかったり、適正な明るさにならないことがあります。

（10 秒後撮影）では、カメラ前面のセルフタイマーランプが点灯し、撮影直前に点滅します。（2 秒後撮影）では、セルフタイマー開始と同時に点滅します。

カウントダウン終了後、すぐに動かないでください。

チェック

セルフタイマーは、撮影が完了すると、自動的に解除されます。撮影モードを切り換えたとき、再生モードに切り換えたとき、カメラの電源がオフになったときも、セルフタイマーは解除されます。

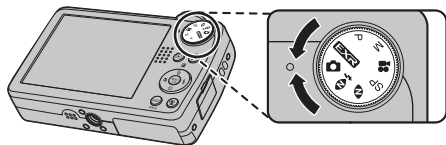
顔キレイナビでセルフタイマー撮影する

セルフタイマー撮影時に顔キレイナビ（→ 30 ページ）を使うと、事前にピントを合わせなくても、カメラが自動的に人物の顔を検出してピントを合わせます。撮影者を含めた集合写真や自分撮り（セルフポートレート）のときに便利です。

顔キレイナビでセルフタイマー撮影するには、ボタンを押して顔キレイナビを選びます。シャッターボタンを全押しすると、撮影までの間に顔を検出し、シャッターがきれる直前にピントと明るさを合わせます。

いろいろな撮影

モードダイヤルで撮影モードを切り換える

撮影モードを切り換えることで、状況（シーン）に適した設定を行うことができます。モードを切り換えるには、モードダイヤルを回して、使用するモードアイコンを指標に合わせます。

AUTO

カメラまかせの簡単操作できれいな写真を撮影できます。ほとんどの状況に適しています。操作の流れについては、「（オート）で撮影する」（→ 24 ページ）を参照してください。

EXR モード（EXR オート/EXR 優先モード）

シーンに最適な EXR モードをカメラ任せで設定したい場合や優先する画質の指標を選んで撮影したい場合に使います。

■ EXR モードを設定する

1 モードダイヤルを EXR に合わせます。

2 **MENU/OK** ボタンを押します。

3 **EXR モード**を選びます。

4 設定の変更に移ります。

5 使用したい EXR モードを選びます。

EXR モード	説 明
EXR オート (→ 43 ページ)	被写体にカメラを向けるだけで、カメラが自動で撮影シーンと最適な EXR モードを設定します。
高解像度優先	被写体の細部までくっきりと撮影したいときに選びます。
高感度 低ノイズ優先	高感度で撮影したときに発生するノイズを軽減したいときに選びます。
ダイナミックレンジ優先	白とびを抑え、明るい部分の階調まで撮影したいときに選びます。D-Rng **ダイナミックレンジ**で R800 **800%**も設定できます（→ 83 ページ）。

6 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

7 **DISP/BACK** ボタンを押して、撮影画面に戻ります。

■ EXR AUTO について

カメラが最適なシーンを認識すると、画面左下にシーンアイコンが表示されます。シーン認識後、シャッターボタンを半押しすると、シーンに最適な EXR モードが自動的に選ばれ、シーンアイコンの横に EXR アイコンが表示されます。

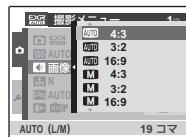
人物を認識した場合

シーン	内容
人物アイコン	**人物**：人物を認識した場合に表示されます。
風景アイコン	**風景**：建物や山などの風景を認識した場合に表示されます。
夜景アイコン	**夜景**：夜景を認識した場合に表示されます。
マクロアイコン	**マクロ**：近接撮影を認識した場合に表示されます。
逆光＆人物アイコン	**逆光＆人物**：逆光のときの人物を認識した場合に表示されます。
夜景＆人物アイコン	**夜景＆人物**：夜景のときの人物を認識した場合に表示されます。

メモ

シーンを認識しなかった場合は、AUTO **AUTO** で撮影されます。

画像サイズについて

EXR AUTO のときに **画像サイズ**を AUTO に設定すると、記録画像は、自動的に最適なサイズで保存されます（→ 78 ページ）。

チェック

- 撮影画面に 人物検出アイコン が表示されます。カメラが最適なシーンを認識するため、人物を常に検出し続けます。
- 常にピント合わせを続けるため、次のような現象が起こります。また、バッテリー残量にご注意ください。
  - レンズの駆動音がします。
  - バッテリーの消耗が早くなります。

高感度2枚撮り

フラッシュ非発光 / 発光で連続 2 枚撮影します。逆光での撮影など光の調整が難しい撮影での失敗を防ぎます。

シャッターボタンを押すと、フラッシュを発光させずに目で見たままの雰囲気を活かして 1 枚目を撮影し、その直後にフラッシュを発光させて 2 枚目を撮影します。必ず 2 枚撮影されるので、撮影が終了するまで、カメラを動かさないようにしてください。

チェック

- フラッシュが強制発光しますので、フラッシュ撮影を禁止している場所では使用しないでください。
- マナーモード（→ 28 ページ）に設定していても、フラッシュは発光します。
- メモリーカードまたは内蔵メモリーに画像 2 枚分以上の空き容量がない場合は撮影できません。

ナチュラルフォト

暗い場面でも、目で見たままの雰囲気を活かした自然な写真になります。室内やフラッシュを使用できない場所での撮影にも適しています。

フラッシュは常に発光禁止になりますが、自動的に高感度になるため、暗い場所でも手ブレや被写体ブレを軽減します。

SP シーンポジション

いろいろな撮影シーンに合わせて、カメラの設定を最適な状態にするシーンポジションが用意されています。

■ シーンポジションを設定する

1 モードダイヤルを SP に合わせます。

2 **MENU/OK** ボタンを押します。
撮影メニューが表示されます。

3 **シーン選択**を選びます。

4 設定の変更に移ります。

5 設定したいシーンポジションを選びます。

6 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

7 **DISP/BACK** ボタンを押して、撮影画面に戻ります。

ぼかしコントロール

人物や花などの背景をぼかし、被写体を強調して撮影したいときに使用します。シャッターを押すと最大 3 コマ連写し、カメラが自動的にピントを合わせた被写体以外の背景をぼかします。一眼レフカメラで撮影したようなぼけ味のある写真を撮影できます。
撮影前に ◀ または ▶ でぼかしの強度を 3 段階から設定できます。

チェック

- 被写体と背景が近づきすぎていると、背景をうまくぼかせないことがあります。フォーカスロック時に「**! 背景をぼかせません**」とメッセージが出たときは、被写体から少し離れて、[♠]（望遠）側へズームレバーを回し調整してください。
- 動いている被写体の場合、ぼかし処理に失敗することがあります。
- ぼかし処理が失敗すると「**! 画像を確認してください**」とメッセージがでます。再度、撮影してください。

注意

撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。

連写重ね撮り

暗いシーンや望遠撮影時の止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターを押すと 4 コマ連写し、カメラが自動的に 1 枚の画像に合成します。手ブレを抑え、高感度でもノイズが少ない写真を撮影できます。

チェック

- 動いている被写体の場合、合成処理に失敗することがあります。
- 撮影中にカメラを大きく動かした場合や撮影シーンによっては、合成されずに記録されることがあります。

注意

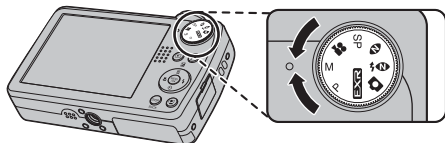
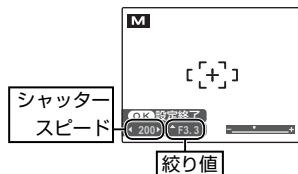
撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。

■ シーンポジションの種類

シーン	機能
ぼかしコントロール	背景をぼかすことで被写体を強調した写真を楽しむことができます。
連写重ね撮り	画像合成して高感度でも手ブレを抑えたノイズの少ない写真を撮影できます。
人物	人物の撮影に適しています。肌の色が自然で、ソフトな印象の写真になります。
美肌	肌を滑らかに撮影します。ソフトな印象の写真になります。
風景	昼間の風景撮影に適しています。建物や山などの風景をくっきりと仕上げます。
スポーツ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッタースピードは高速になり、自動的に **パフォーマンス**が **AF スピードアップ**になります。
夜景	夕景や夜景の撮影に適しています。自動で高感度になるため、手持ち撮影で発生しやすい手ブレを軽減します。
夜景（三脚）	夜景の撮影に適しています。スローシャッターでの撮影が行われます。手ブレ防止のため三脚のご使用をおすすめします。
花火	スローシャッターで打ち上げ花火を色鮮やかに撮影します。手ブレ防止のため三脚のご使用をおすすめします。
夕焼け	夕焼けを赤く鮮やかに撮影します。
スノー	白く輝く雪景色で画像が暗くなるのを防ぎ、明るく、くっきりと撮影します。
ビーチ	日差しの強い浜辺で画像が暗くなるのを防ぎ、明るく、くっきりと撮影します。
パーティー	室内での結婚式やパーティーの撮影で使用します。薄暗い場所でも雰囲気を活かした自然な写真になります。
花の接写	花に近づいて撮影するときに使用します。花びらの色を鮮やかに撮影できます。 ピントが合う範囲は マクロになります。
TEXT 文字の撮影	書類やホワイトボードなどを撮影するときに使用します。文字をはっきりと撮影します。 ピントが合う範囲は マクロになります。

M マニュアル

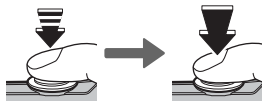
M マニュアルでは、シャッタースピードや絞り値も撮影者が設定できます。意図的に「オーバー（明るい）」または「アンダー（暗い）」の露出を設定できるので、個性的で多彩な表現が可能になります。

1 モードダイヤルを **M** に合わせます。

2 （露出補正）ボタンを押します。
シャッタースピードと絞り値の設定画面が表示されます。

3 ▲ または ▼ で絞り値を設定します。

4 ◀ または ▶ でシャッタースピードを設定します。

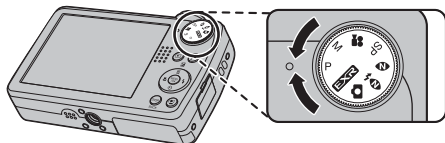
注意
長時間露光したときは、画像に点状のノイズが発生することがあります。

5 **MENU/OK** ボタンを押して、設定を終了します。

6 撮影します。

露出インジケーターについて
画面の右下の露出インジケータを目安に露出を決定します。

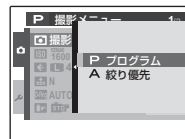
Pプログラムオート

P プログラムオートでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。

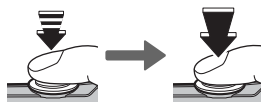
1 モードダイヤルを **P** に合わせます。

2 **MENU/OK** ボタンを押します。
撮影メニューが表示されます。

3 **撮影モード**を選びます。

4 設定の選択に移ります。

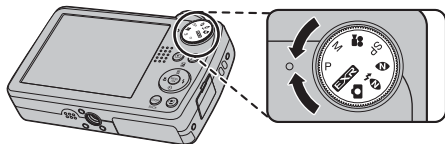
5 **P プログラム**を選びます。

6 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

7 **DISP/BACK** ボタンを押して、撮影画面に戻ります。

8 撮影します。

注意
被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、シャッタースピードおよび絞り値が「----」と表示されます。その場合は、シャッターボタンを半押しして測光し直してください。

A 絞り優先で撮影する

A 絞り優先では、絞りを設定できます。設定した絞り値に合わせて、カメラがシャッタースピードを自動的に決定します。

1 モードダイヤルを **P** に合わせます。

2 **MENU/OK** ボタンを押します。
撮影メニューが表示されます。

3 **撮影モード**を選びます。

4 設定の選択に移ります。

5 **A 絞り優先**を選びます。

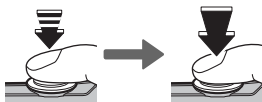
6 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

7 **DISP/BACK** ボタンを押して、撮影画面に戻ります。

8 (露出補正)ボタンを押します。
絞り値の設定画面が表示されます。

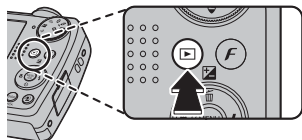
9 ▲、▼、◀ または ▶ で露出や絞り値を設定します。

10 **MENU/OK** ボタンを押して、設定を終了します。

11 撮影します。

注意

- 設定した絞り値で適正な明るさにならないときは、シャッタースピードが赤色で表示されます。その場合は絞り値を設定し直してください。
- 被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、シャッタースピードが「----」と表示されます。その場合はシャッターボタンを半押しして測光し直してください。

1 コマ再生する

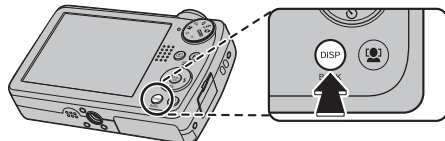
▶ ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示（1 コマ再生）されます。

1 つ前の画像を見るには ◀ を押します。次の画像を見るには ▶ を押します。ボタンを押し続けると、早送りします 。

☛ チェック

他のカメラで撮影した画像をこのカメラで再生すると、液晶モニターに 🎁（プレゼントアイコン）が表示されます。

液晶モニターの表示切り換え

DISP/BACK ボタンを押して、再生表示のモードを表示します。

画面下中央に表示されます。

DISP/BACK ボタンを押すたびにモードが切り替わります。

情報表示あり

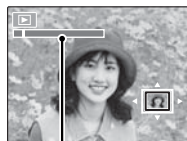
情報表示なし

日付再生
(→ 55 ページ)

再生ズーム

1 コマ再生時に画像をズーム（拡大）できます。

（広角）側へズーム
レバーを回すと縮小します。

（望遠）側へズーム
レバーを回すと拡大します。

画像の拡大表示中に ▲、▼、◀ または ▶ を押すと、液晶モニターに表示される範囲を移動できます。

再生ズームを解除するには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

☛ チェック

- 最大ズーム倍率は、設定した **画像サイズ**（→ 78 ページ）によって変わります。
- **リサイズ**で保存された画像および **トリミング**の 640 で保存された画像は、再生ズームは使えません。

顔キレイナビで撮影した画像の再生について

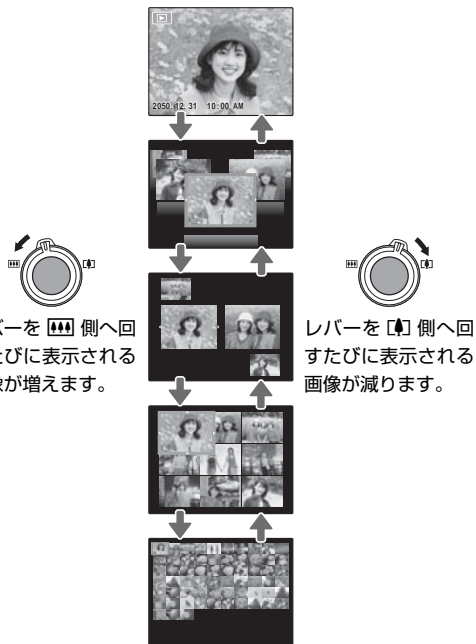
顔キレイナビ（→ 30 ページ）を使って撮影した画像を再生すると、 が液晶モニターに表示されます。 ボタンを押すと、検出した顔が拡大表示されます。さらに拡大したいときは、ズームレバーを使ってください。

いろいろな再生

マルチ再生する

再生時に、1 コマ、1 コマ順序付き、2 コマ、9 コマ、100 コマ（マイクロサムネイル）を表示して、画像を比較したり、見たい画像を選んだりすることができます。

レバーを 🔳 側へ回すたびに表示される画像が増えます。

レバーを 🔍 側へ回すたびに表示される画像が減ります。

- ▲、▼、◀ または ▶ を押して画像を選び、**MENU/OK** ボタンを押すと、選んだ画像を 1 コマ表示します。
- 9 コマ再生または 100 コマ再生では、▲ または ▼ を押してページを切り換えられます。

メモ：2 コマ再生

高感度 2 枚撮りで撮影した画像を比較するときは2コマ再生が便利です。

日付ごとに再生する

1 **DISP/BACK** ボタンを押して、再生表示のモードを表示します。

画面下中央に表示されます。

2 **DISP/BACK** ボタンを繰り返し押して、日付再生画面を選びます。

3 ▲ または ▼ を押して、日付を選びます。

4 ◀ または ▶ を押して、見たい画像を選びます。

メモ：早送り

- ▲ または ▼ 長押しで、早送りで日付が変わります。
- ◀ または ▶ 長押しで、同日日付内で画像の早送りができます。

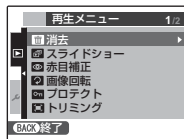
画像を消去する

再生メニューでは、画像を 1 コマだけ消去したり、内蔵メモリーやメモリーカード内の画像をすべて消去することができます。**誤って画像を消去すると元には戻せません。消去したくない画像は、あらかじめパソコンにコピーしておいてください。**1 コマ再生画面での画像の消去については、29 ページを参照してください。

再生メニューで 1 コマ消去する

再生メニューから画像を消去できます。

1 再生時に **MENU/OK** ボタンを押します。

再生メニューが表示されます。

2 **消去**を選びます。

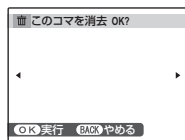
3 設定の変更に移ります。

4 **1 コマ**を選びます。

5 **MENU/OK** ボタンを押します。

1 コマ削除画面が表示されます。

6 消去する画像を選びます。

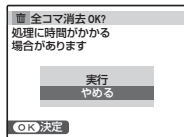
いろいろな再生

7 **MENU/OK** ボタンを押します。
選んだ画像が消去されます。

注意
- **MENU/OK** ボタンを押すと同時に画像が消去されます。誤って消去しないように、ご注意ください。
- **MENU/OK** ボタンを繰り返し押すと画像が連続して消去されます。消去する画像を選んで（手順 6）から **MENU/OK** ボタンを押してください。

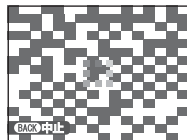
手順 6、7 を繰り返すと、続けて画像を消去できます。消去を完了するには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

すべてのコマを消去する

1 前ページの手順 4 で**全コマ**を選びます。

2 **MENU/OK** ボタンを押します。
全コマ削除画面が表示されます。

3 **実行**を選びます。

4 **MENU/OK** ボタンを押します。
すべての画像が削除されます。

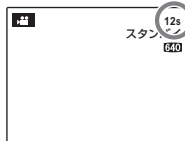
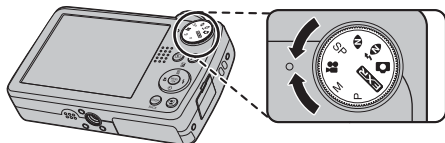
消去中は、右のような画面が表示されます。全コマ消去を中止するには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

注意
DISP/BACK ボタンを押して消去を中止しても、それまでに消去した画像は元に戻せません。

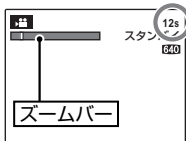
メモ : 画像の消去
- メモリーカードがカメラに入っているときは、メモリーカード 内の画像が消去されます。メモリーカードが入っていないときは、内蔵メモリーの画像が消去されます。
- プロテクトされた画像は消去できません。消去するには、プロテクトを解除してください (→ 96 ページ)。
- プリント予約を設定している画像を消去しようとすると、メッセージが表示されます。**MENU/OK** ボタンを押すと、その画像を消去します。

動画の撮影と再生

動画を撮影する

音声付きのMotion JPEG形式の動画を撮影できます。

1 モードダイヤルを（動画）に合わせます。

液晶モニターに撮影可能時間が表示されます。

2 ズームレバーを動かして、ズーム操作をします。

3 シャッターボタンを全押しして、動画撮影を開始します。

撮影中にシャッターボタンを押し続ける必要はありません。

撮影中は、●**REC** の文字と残り時間のカウントダウンが表示されます。

4 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

残り時間がなくなるか、内蔵メモリーまたはメモリーカードに空きがなくなると、撮影は自動的に終了します。

注意

メモリーカードに記録中は背面のインジケーターランプが点灯します。動画撮影中またはインジケーターランプ点灯中にバッテリーカバーを開けないでください。撮影した動画が再生できなくなります。

チェック

- ピントや露出、ホワイトバランスはシーンに応じて自動的に変化します。撮影した動画の色と明るさが、撮影前の液晶モニターの表示と異なることがあります。
- 動画の撮影形式は、モノラル音声付き Motion JPEG 形式です。
- 被写体が暗くピントが合いにくい場合、AF 補助光ランプが発光します。AF 補助光を発光しないようにするには、セットアップメニューの **AF 補助光**（→ 104 ページ）を **OFF** にします。
- 動画撮影中、カメラの動作音が記録されることがあります。

注意

- 音声も同時に記録されるので、撮影中に指などでマイクをふさがないようご注意ください。

動画の画像サイズを変更するには

撮影メニューで **ピクセル**を選びます（→ 76 ページ）。640（640 × 480 ピクセル、画質重視）または 320（320 × 240 ピクセル、サイズ重視）から選択できます。

ピント合わせの設定を変更するには

撮影メニューで AF モードを選びます。

■ **センター固定**

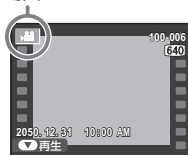
ズーム操作時、画面中央にピントを合わせ直します。

■ **コンティニュアス**

動きのある被写体の撮影に適しています。動いている被写体にピントを合わせ続けます。

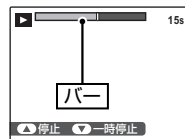
▶ 動画を再生する

画像の再生時に動画を選択すると、 が表示されます。

動画アイコン

動画再生時の操作方法について

機能	操作	説明
再生 / 一時停止	▼	再生を開始します。再生が終わると停止します。再生中にもう一度 ▼ を押すと、一時停止します。
停止	▲	再生を終了します。
早送り / 巻き戻し	◀ ▶	再生中 ◀ または ▶ を押し続けると巻き戻し / 早送りします。
コマ送り	◀ ▶	一時停止中に ◀ または ▶ を押すとコマ送りします。
動画の削除	▲	停止中に 🗑 を押すと、現在表示中の動画を消去できます。

機能	操作	説明
再生音量の調節	MENU/OK ＋ ▲▼	再生中に **MENU/OK** ボタンを押すと、再生音量の設定画面が表示されます。 ▲ または ▼ を押して動画の再生音量を選び、**MENU/OK** ボタンで決定します。 • 動画の再生音量は、セットアップメニューでも設定できます（→ 108 ページ）。

動画再生時には、進行状況を示すバーが表示されます。

メモ：パソコンで動画を再生する

パソコンで動画を再生するときは、カメラをパソコンに接続して、動画をパソコンに転送してください（→ 62 ページ）。

注意

- スピーカーを指などでふさがないでください。音が聞き取りにくくなります。
- 高輝度の被写体を撮影した場合、再生時に縦スジや横スジが入ることがありますが故障ではありません。

動画の撮影と再生

画像をテレビで見る

テレビに接続する

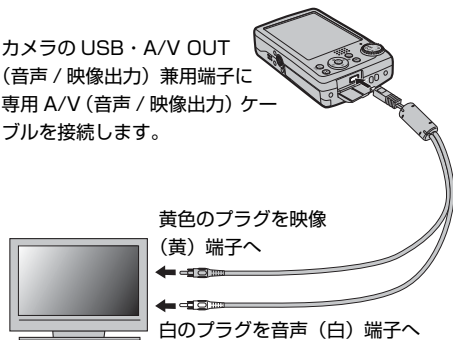
テレビに接続すると、写真やスライドショー（→ 91 ページ）を大勢で楽しむことができます。

1 カメラの電源をオフにします。

2 専用 A/V（音声 / 映像）ケーブルでカメラとテレビを接続します。

カメラの USB・A/V OUT（音声 / 映像出力）兼用端子に専用 A/V（音声 / 映像出力）ケーブルを接続します。

黄色のプラグを映像（黄）端子へ

白のプラグを音声（白）端子へ

注意

出力ケーブルは、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換えます。

テレビの音声 / 映像入力については、テレビの説明書を参照してください。

4 ▶（再生）ボタンを約 1 秒間押して、カメラの電源をオンにします。

カメラの液晶モニターが消え、画像やボイスメモがテレビで再生されます。

チェック

- 音量はテレビ側で調整してください。カメラで再生音量の設定をしても、音量は変わりません。
- 動画を再生すると、静止画に比べて画質が低下します。

画像をパソコンに転送する

パソコンと接続する

付属のソフトウェア FinePixViewer を使うと、カメラと接続したパソコンに画像をコピーして、画像の閲覧、管理、印刷をすることができます。また、インターネットに接続できる環境があれば、デジカメプリントを注文する（Windows のみ）こともできます。カメラとパソコンを接続する前に、FinePixViewer をパソコンにインストールしてください（最新の FinePixViewer は、http://fujifilm.jp/ からダウンロードできます）。インストール前にカメラをパソコンに接続すると、正常に接続できなくなる場合があります。

Windows に FinePixViewer をインストールする

1 インストールの前に、お使いのパソコンが次の使用条件に合うか確認します。

	動作環境	推奨環境	
OS	Windows Vista、Windows XP Home Edition、Windows XP Professional（SP2）、Windows 2000 Professional（SP4）* （すべてプリインストールされたモデルのみ。）	Windows Vista	Windows XP
CPU	Pentium 200 MHz 以上（Windows Vista/XP の場合は、Pentium 4/800 MHz 以上）	Pentium4/3 GHz 以上	Pentium4/2 GHz 以上
メモリ	128 MB 以上（Windows Vista/XP の場合は 512 MB 以上）	1 GB 以上	512 MB 以上
ハードディスク空き容量	**インストールに必要な容量**：450 MB 以上 **動作に必要な容量**：600 MB 以上	15 GB 以上	2 GB 以上
ディスプレイ	800 × 600 ドット以上、16 ビットカラー以上	1024 × 768 ドット以上フルカラー	
その他	• 本体標準の USB ポートを推奨します。その他の USB ポートは動作保証外です。 • 画像ネットサービス、メール添付機能使用時に、インターネット接続ができる環境（通信速度 56kbps 以上推奨）が必要です。		

* Windows® 7 への対応情報は、http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/index.html をご覧ください。

☛ チェック

FinePixViewer CD-ROM のラベル上部には、お手元の CD-ROM のバージョンが記載されています。ソフトウェアのアップデート対象バージョンの確認時やお問い合わせの際に必要な情報です。

注意
前ページ以外の Windows OS では使用できません。自作パソコンや、OS をアップグレードしたパソコンは、動作保証外です。

2 パソコンを起動します。
コンピューターの管理者アカウント（例えば、「Administrator」）でログインしてください。

3 起動中のアプリケーションを終了して、付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れます。
インストーラーが自動で起動します。

Windows Vista をお使いの方へ
同梱の CD-ROM をパソコンに入れたときに「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、**SETUP.EXE の実行**をクリックしてください。「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されるので、**許可**をクリックしてください。

インストーラーを手動で起動する
インストーラーが自動起動しない場合は、手動で起動させます。
1 **マイコンピュータ**を開きます。
- Windows Vista/XP：スタートメニューから**コンピュータ**（Windows XP では、**マイコンピュータ**）をクリックします。
- Windows 2000 Professional：デスクトップの**マイコンピュータ**アイコンをダブルクリックします。

2 **FINEPIX** の CD-ROM アイコンをダブルクリックします。「FINEPIX」ウィンドウが表示されます。
3 **SETUP** または **SETUP.exe** をダブルクリックします。

画像をパソコンに転送する

4 **FinePixViewer のインストール**をクリックします。

画面の指示にしたがってソフトウェアをインストールしてください（Windows Media Player、DirectX が CD-ROM の中身よりも古いバージョンの場合は、これらのソフトウェアをインストールします）。

5 「FinePixViewer のインストールが完了しました」というメッセージが表示されたら、CD-ROM をパソコンから取り出し、**再起動**ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

これでインストールは終了しました。続いて、「カメラとパソコンを接続する」（→ 68 ページ）に進んでください。

☛ チェック
CD-ROM は再インストール時に必要となりますので、パソコンから取り出した後、湿気がなく日が当たらないところに大切に保存してください。

Windows から FinePixViewer をアンインストール（削除）する

インストールしたソフトウェアが不要になったときのみアンインストールを行ってください。**アンインストールの前に FinePixViewer を終了し、カメラとパソコンの接続を外してください。**

1. コントロールパネルを開き、「プログラムのアンインストール」（Windows Vista）または「プログラムの追加と削除」（Windows XP/2000）で FinePixViewer、FinePix Resource、FinePix Studio を削除してください。
2. 確認ダイアログが表示されたら、メッセージをよくお読みの上、**OK** をクリックしてください。

Mac OS X に FinePixViewer をインストールする

1 お使いのパソコンが、次の使用条件に合うか確認します。

	動作環境
CPU	PowerPC または Intel processor
OS	Mac OS X（バージョン 10.3.9 ～ 10.5※） （すべてプリインストールされたモデルのみ。）
メモリ	256MB 以上
ハードディスク空き容量	インストールに必要な容量：200MB 以上 動作に必要な容量 400MB 以上
ディスプレイ	800 × 600 ドット以上、約 32,000 色以上
その他	• 本体標準の USB ポートを推奨します。その他の USB ポートは動作保証外です。 • 画像ネットサービス、メール添付機能使用時に、インターネット接続ができる環境（通信速度 56kbps 以上推奨）が必要です。

※ 最新の対応 OS については、下記のホームページを参照してください。
http://fujifilm.jp/

☛ チェック

FinePixViewer CD-ROM のラベル上部には、お手元の CD-ROM のバージョンが記載されています。ソフトウェアのアップデート対象バージョンの確認時やお問い合わせの際に必要な情報です。

2 パソコンを起動して、起動中のアプリケーションを終了します。

3 付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れると、**FinePix** アイコンが表示されます。**FinePix** アイコンをダブルクリックし、続いて **Installer for MacOSX** をダブルクリックします。

画像をパソコンに転送する

4 **FinePixViewer のインストール**をクリックします。

画面の指示にしたがって、ソフトウェアをインストールします。管理者パスワードの入力画面が表示されたら、管理者名とパスワードを入力し、**OK** をクリックしてください。

5 再起動後、「FinePixViewer のインストールが完了しました」というメッセージが表示されます。**終了**をクリックしてください。

6 CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出します。

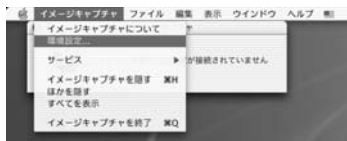
注意

Web ブラウザに Safari をご使用の場合、CD-ROM を取り出す際に、「ディスク“FinePix”は使用中のため取り出せませんでした。」のメッセージが表示されることがあります。

その場合は、Dock 内にある Safari のアイコンをクリックして起動し、アプリケーションメニューの **Safari** − **Safari を終了**を選択して終了させてから、CD-ROM を取り出します。

FinePixViewer の自動起動について

カメラを接続したとき、FinePixViewer を自動起動させるには、

1 **アプリケーション**フォルダから**イメージキャプチャ（Image Capture）**を起動します。
2 **イメージキャプチャ**メニューより**環境設定**を選択します。

3 **カメラを接続したときに起動する項目**から**その他**を選択します。
4 **アプリケーション**フォルダから **FPVBridge** を選択し、**開く**ボタンをクリックします。
5 イメージキャプチャを終了します。

これでインストールは終了しました。続いて、67 ページの「カメラとパソコンを接続する」に進んでください。

☛ チェック

CD-ROM は再インストール時に必要となりますので、パソコンから取り出した後、湿気がなく日が当たらないところに大切に保存してください。

Mac OS X から FinePixViewer をアンインストール（削除）する

インストールしたソフトウェアが不要になったときのみアンインストールを行ってください。**アンインストールの前に FinePixViewer を終了し、カメラとパソコンの接続を外してください。**

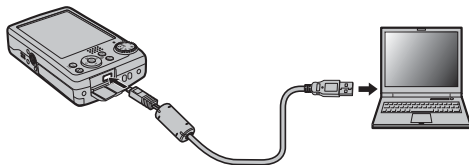
1 アプリケーションフォルダにインストールされた FinePixViewer フォルダをドラッグして、「ゴミ箱」に入れます。
2 Finder メニューの**ゴミ箱を空にする**を選びます。

カメラとパソコンを接続する

実際にカメラをパソコンと接続して正常に動作することを確認してください。Windows パソコンをお使いの場合は、Windows の CD-ROM が必要になることがありますので、あらかじめご用意ください。

1 FinePixViewer をインストールしたパソコンを起動します。

2 カメラの電源をオフにします。

3 付属の USB ケーブルで、カメラとパソコンを接続します。

☛ **チェック**

USB ケーブルは、向きに気をつけて、接続端子の奥までしっかりと差し込んでください。USB ハブやキーボードを経由させずに、直接カメラとパソコンを接続してください。

4 ▶ ボタンを長押しして、カメラの電源をオンにします。

5 画像を転送します。

FinePixViewer が自動的に起動するので、画面の指示にしたがって画像をパソコンにコピーします。転送を中止して終了するには、**キャンセル**をクリックします。

6 カメラとパソコンの接続を外します。

画像の保存が終了すると、カメラ / メディアの取り外し画面が表示されます。画面の指示にしたがって、カメラの電源をオフにしてからカメラとパソコンの接続を外してください。

注意

- 画像をコピーするときは、バッテリー切れに注意してください。通信中に電源がオフになると、メモリーカードまたは内蔵メモリー内のデータが破壊されることがあります。
- 内蔵メモリーの画像を転送する場合は、メモリーカードを取り出してください。
- メモリーカード内に大量の画像がある場合は、FinePixViewerの起動に時間がかかり、画像の保存や転送ができないことがあります。このような場合は、お手元のカードリーダを使って、転送してください。
- ボイスメモの付いた画像は、必ず FinePixViewer を使ってコピーしてください。
- カメラとパソコンの接続を外す前に、カメラのインジケーターランプが消灯していることを確認してください。
- カメラとパソコンの通信時には、以下の操作をしないでください。メモリーカードや内蔵メモリーのデータが壊れたり、データが消えることがあります。
  - カメラの電源をオフにする
  - USB ケーブルを抜く
  - メモリーカードを抜く
- メモリーカードの交換は、必ずカメラとパソコンの接続を外したあとに行なってください。
- FinePixViewer が自動起動しないときは、ソフトウェアが正しくインストールされていない可能性があります。パソコンとカメラの接続を外して、ソフトウェアを再インストールしてください。
- FinePixViewer でネットワークサーバ上に画像ファイルを保存してご利用いただく場合、スタンドアローン（単独）のパソコンのようにご利用になれないことがあります。
- パソコンでの「コピー中」という表示が消えてすぐにカメラを取り外したり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。大きなサイズのデータをコピーした場合、パソコンの表示が消えても、カメラのアクセスがしばらく行われている場合があります。
- インターネットに接続する際に発生する通話料金、プロバイダ接続料金などはお客様のご負担となります。

チェック

パソコンとの接続時には、一定時間内に操作を行なわなくても、カメラは自動電源 OFF しません。

FinePixViewer の使い方、トラブルシューティング、オンライン Q&A については、FinePixViewer のヘルプを参照してください。

Fotonoma（フォトノマ）について

パソコンにインストールした FinePixViewer を起動すると、ユーザー登録画面が表示されます。ユーザー登録すると、製品サポートだけではなく、FUJIFILM の写真関連ポータルサイト「Fotonoma」（http://fotonoma.jp）への登録もできます。

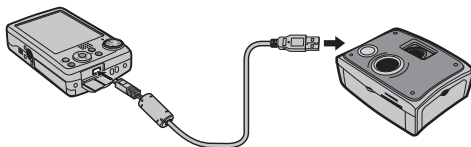
ユーザー登録方法や Fotonoma についての詳しい情報は、付属の「Fotonoma ご案内ガイド」を参照してください。

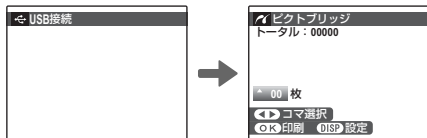
画像をプリントする

プリンターにカメラをつないでプリントする

PictBridge（ピクトブリッジ）対応のプリンターがあれば、パソコンを使わなくても、カメラを直接プリンターにつないでプリントできます。

プリンターに接続する

1 付属の USB ケーブルでカメラとプリンターを接続し、プリンターの電源を入れます。

2 ▶（再生）ボタンを長押しして、カメラの電源をオンにします。

液晶モニターに USB が表示され、その後ピクトブリッジ画面が表示されます。

その場で選んでプリントする

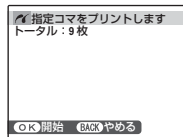
1 プリントしたい画像を選びます。

2 プリント枚数を指定します。

最大 99 枚まで設定できます。

3 手順 1 と 2 を繰り返し、プリントしたい画像をすべて選びます。

4 **MENU/OK** ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

5 もう一度 **MENU/OK** ボタンを押します。
プリントが開始されます。

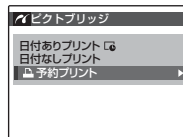
チェック
- プリント枚数を 1 枚も指定せずに **MENU/OK** ボタンを押すと、表示中の画像が 1 枚プリントされます。
- お使いのプリンターの種類によっては、使えない機能があります。

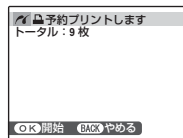
メモ：日付を入れてプリントする
撮影した日付を入れてプリントするには、手順 1 または 2 で **DISP/BACK** ボタンを押します。ピクトブリッジの設定画面が表示されますので、▲ または ▼ を押して、**日付ありプリント** を選び、**MENU/OK** ボタンを押して決定します。
- 日付を印字したくないときは、**日付なしプリント**を選びます。
- 日付プリントに対応していないプリンターに接続した場合は、**日付ありプリント** が選べません。

プリント予約した設定でプリントする

プリント予約（DPOF）（→ 74 ページ）であらかじめ選んだ画像を設定した枚数分プリントします。

1 **DISP/BACK** ボタンを押します。
ピクトブリッジの設定画面が表示されます。

2 **予約プリント**を選びます。

3 **MENU/OK** ボタンを押します。
確認画面が表示されます。

画像をプリントする

4 もう一度 **MENU/OK** ボタンを押します。

プリントが開始されます。

プリントの中止

プリント中に **DISP/BACK** ボタンを押すと、プリントを中止します。プリンターによっては、すぐに中止できないことやプリントの途中で停止することがあります。プリントの途中で動作が止まってしまったときは、カメラの電源をいったんオフにしてから、もう一度電源をオンにしてください。

プリンターとの接続を切るには

カメラの液晶モニターに**プリント中**と表示されていないことを確認してから、カメラの電源をオフにして、USB ケーブルを取り外します。

チェック

- 内蔵メモリーまたはこのカメラでフォーマットしたメモリーカードを使って、プリントしてください。
- カメラとプリンターを USB ケーブルで直接つないでいるときは、プリンター側で設定した用紙サイズと印字品質でプリントされます。

プリントサービス店でプリントする（お店プリント）

「お店プリント」とは、**プリント予約（DPOF）**（→ 74 ページ）であらかじめ DPOF 指定（→ 125 ページ）した画像の入ったメモリーカードをフジカラーデジカメプリントサービス（FDI サービス）取扱店にお持ちいただき、「DPOF 指定でプリント」とお伝えいただくだけで、簡単に高画質でプリントできるサービスです。プリントしたい画像と枚数をカメラであらかじめ設定できるので、店頭での時間や手間を省けます。

事前にカメラでプリントする画像と枚数を設定します（**プリント予約（DPOF）**→ 74 ページ）。

画像の入ったメモリーカードをカメラから取り出します。

メモリーカードをお店にお持ちいただくだけで、手軽に高画質でプリントできます。
詳細は、http://fujicolorprint.jp/ を参照してください。

デジカメプリントのご注文について

- カメラであらかじめ DPOF 指定していなくても、フジカラーデジカメプリントサービス取扱店の店頭で、プリントしたい画像や枚数、日付印字の有無を指定できます。お店のプリント受付機をご利用いただくと、画像を見ながら簡単に注文できます。
- 一部の店舗では、DPOF 指定をお受けしていない場合がありますので、ご注文時にご確認ください。
- パソコンに保存した画像なら、インターネットでもデジカメプリントをご注文いただけます。画像をパソコンに転送する方法は、62 ページを参照してください。
- 内蔵メモリー内の画像は、お店プリントできません。再生メニューの **画像コピー**（→ 98 ページ）でメモリーカードに画像をコピーしてから **プリント予約（DPOF）** で DPOF 指定して、プリントサービス店にお持ちください。
- 日付プリントする場合は、撮影時にすでにカメラの日時設定が正しく設定されている必要があります。撮影前にカメラの日時設定が正しく設定されていることをご確認ください（→ 22 ページ）。

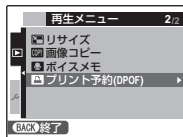
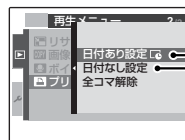
プリントする画像を指定する（ プリント予約（DPOF））

再生メニューの **プリント予約（DPOF）** であらかじめ DPOF 指定（プリント予約）しておくと、カメラを PictBridge 対応プリンターに直接つないでプリントしたり（→ 70 ページ）、フジカラーデジカメプリントサービス（FDI サービス）取扱店でお店プリントするとき（→ 73 ページ）に、指定した内容で簡単にプリントできます。

DPOF 指定

DPOF（ディーポフ）とは、Digital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたい画像や枚数、日付の印字の有無などの指定情報を、メモリーカードなどに記録するときの形式です。

■ 日付あり設定 / 日付なし設定

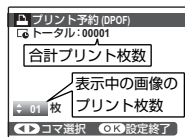
1 再生メニューで **プリント予約（DPOF）** を選びます（→ 92 ページ）。

2 **日付あり設定**または**日付なし設定**を選びます。

日付あり設定：撮影日を印字します。

日付なし設定：撮影日を印字しません。

3 **MENU/OK** ボタンを押します。

4 DPOF 指定する画像を選びます。

5 プリント枚数を選びます（最大99枚）。

- DPOF指定を取り消したいときは、プリント枚数が0になるまで▼を押します。

- 顔キレイナビ（→30ページ）で撮影した画像（が表示された画像）の場合、ボタンを押すと、カメラが検出した顔の数と同じプリント枚数が設定されます。

6 プリントしたいすべての画像に対して手順4と5を行います。

設定した内容を保存して終了するには、**MENU/OK** ボタンを、設定を変更せずに終了するには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

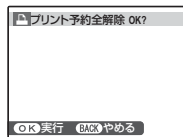
7 合計枚数を確認して、もう一度 **MENU/OK** ボタンを押します。

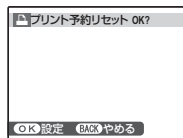
DPOF指定（プリント予約）した画像には、再生時にが表示されます。

■ 全コマ解除

現在設定されているDPOF指定（プリント予約）を一度に解除できます。

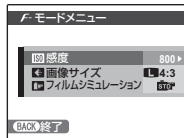
プリント予約全解除 OK?
OK 実行　BACK やめる

全コマ解除を選び、**MENU/OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度、**MENU/OK** ボタンを押すと、DPOF指定がすべて解除されます。

☛ チェック

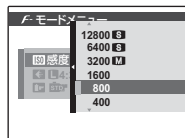
- 内蔵メモリーに記録している画像のDPOF指定を変更するときは、メモリーカードを取り出してください。
- 同じメモリーカードで最大999枚までDPOF指定することができます。
- 別のカメラでDPOF指定された画像がメモリーカードに入っているときは、右図のようなメッセージが表示されます。**MENU/OK** ボタンを押して、既に設定されているDPOF指定を取り消し、DPOF指定し直してください。

撮影の設定を変える — F-モードメニュー（撮影）

撮影時に使う機能を設定できます。

F-モードメニュー（撮影）の使い方

1 F ボタンを押します。
F-モードメニュー（撮影）が表示されます。

☛ **チェック**
メニューに表示される項目は、撮影モードによって異なります。

2 変更する項目を選びます。

3 設定の変更に移ります。

4 設定を変更します。

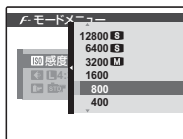
5 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

6 **DISP/BACK** ボタンを押して、撮影画面に戻ります。

F-モードメニュー（撮影）一覧

メニュー項目	機能	設定	工場出荷時	参照ページ
ISO 感度	光に対する感度を変更できます。	AUTO/AUTO(1600)/AUTO(800)/AUTO(400)/12800/6400/3200/1600/800/400/200/100	AUTO	P.78
画像サイズ	撮影する画像の大きさを変更できます。	L 4:3/L 3:2/L 16:9/M 4:3/M 3:2/M 16:9/S 4:3/S 3:2/S 16:9	L 4:3	P.78
フィルムシミュレーション	撮影する画像の発色や階調を変更できます。	STD PROVIA/V Velvia/S ASTIA/B B&W/SEPIA セピア	STD PROVIA	P.79

感度を変更する（ISO 感度）

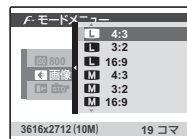
光に対する感度を変更できます。感度の設定値が大きいほど、暗い場所での撮影が可能になります。ただし、高感度になるほど、画像に粒子状のノイズが増えます。条件に合わせて感度設定を使い分けてください。

■ 感度設定 AUTO について

- **AUTO**、**AUTO(　)** の場合、被写体の明るさに応じて感度が自動的に設定されます。
- **AUTO(　)** では、自動的に設定される感度の上限を選べます。たとえば **AUTO(1600)** の場合、最高 ISO 1600 まで自動的に感度が上がります。
- **AUTO** 以外のときは設定値が表示されます。

☛ チェック

- **ISO 感度**は、カメラの電源をオフにしても保持されます。
- **3200**、**6400**、**12800** に設定すると、**1600** 以下で撮影した画像よりもノイズの多い画像になります。

画像の大きさを変える（画像サイズ）

記録する画像の大きさを変更できます。画像サイズ（ピクセル）が大きいほど画質が良くなり、小さいほどより多くの枚数を記録することができます。

設 定	用途例
L 4:3	A3、四切（254mm×305mm）、四切 W サイズ程度で印刷する場合に適しています。
L 3:2	
L 16:9	
M 4:3	六切（203mm×255mm）、A4 サイズ程度で印刷する場合に適しています。
M 3:2	
M 16:9	
S 4:3	DSC（89mm×119mm）、L（89mm×127mm）、A6 サイズ程度で印刷する場合に適しています。
S 3:2	
S 16:9	

現在の設定で撮影可能な枚数（→ 127 ページ）が、液晶モニターのピクセルアイコンの右側に表示されます。

☛ チェック

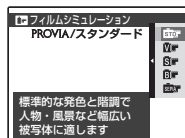
画像サイズは、カメラの電源をオフにしても撮影モードを切り換えても保持されます。

画像の縦横比について

画像の縦横比によって撮影できる範囲が異なります。用途に合わせて縦横比を選択してください。

設 定	説 明
4:3	縦横比は４：３になります（通常）。
3:2	画像の縦横比がフィルムやポストカードと同じ３：２になります。
16:9	画像の縦横比が 16：9 になり、ハイビジョンテレビでの再生に適しています。

フィルムシミュレーションを設定する（フィルムシミュレーション）

撮影時の発色や階調を変更できます。被写体に応じてフィルムを再現した設定から選べます。また、白黒やセピアカラーでも撮影できます。

設 定	説 明
STD PROVIA/スタンダード	標準的な発色と階調で人物、風景など幅広い被写体に適しています。
V Velvia/ビビッド	高彩度な発色とメリハリのある階調表現で、風景や自然の撮影に適しています。
S ASTIA/ソフト	落ち着いた発色とソフトな階調で、しっとりとした表現に適しています。
B B&W	モノトーンの表現を活かした印象的な仕上がりの撮影に適しています。
SEPIA セピア	ワーム調の色合いであたたかみのある雰囲気の表現に適しています。

撮影の設定を変える ― 撮影メニュー

撮影時に使う機能を設定できます。

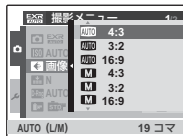
撮影メニューの使い方

1 **MENU/OK** ボタンを押します。
撮影メニューが表示されます。

撮影メニュー 1/2
EXRモード
感度 AUTO
画像サイズ AUTO 4:3
画質モード N
ダイナミックレンジ AUTO
フィルムシミュレーション STD
BACK 終了

☛ **チェック**
撮影メニューに表示される項目は、撮影モードによって異なります。

2 変更する項目を選びます。

3 設定の変更に移ります。

4 設定を変更します。

5 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

6 **DISP/BACK** ボタンを押して、撮影画面に戻ります。

撮影メニュー一覧

	メニュー項目	機能	設定	工場出荷時	参照ページ
1/2	シーン選択	モードダイヤルが SP のときに、好きなシーンポジションを選んで、モードダイヤルに割り当てることができます。	///////////////TEXT		P.45
	撮影モード (P/A)	モードダイヤルが **P** のときに **P プログラム**または **A 絞り優先**に設定できます。	P/A	P	P.49 P.50
	EXR モード	モードダイヤルが EXR のときにシーンに合った **EXR** モードを設定できます。	EXR AUTO/HR/SN/DR	EXR AUTO	P.42
	ISO 感度	光に対する感度を変更できます。	AUTO/AUTO(1600)/AUTO(800)/AUTO(400)/12800/6400/3200/1600/800/400/200/100	AUTO	P.78
	画像サイズ	撮影する画像の大きさを変更できます。	**L 4:3**/**L 3:2**/**L 16:9**/**M 4:3**/**M 3:2**/**M 16:9**/**S 4:3**/**S 3:2**/**S 16:9**	**L 4:3**	P.78
	画質モード	撮影する画像の画質を変更できます。	FINE/NORMAL	NORMAL	P.83
	D-Rng ダイナミックレンジ	明るい部分の白とびを防ぎ、目で見たままに近い写真を撮影できます。	AUTO/R100 100%/R200 200%/R400 400%/R800 800%	AUTO	P.83
	フィルムシミュレーション	撮影する画像の発色や階調を変更できます。	STD PROVIA/V Velvia/S ASTIA/B B&W/SEPIA セピア	STD PROVIA	P.79

メニューを使いこなす

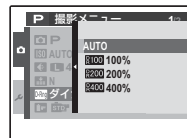
	メニュー項目	機能	設定	工場出荷時	参照ページ
2/2	WB ホワイトバランス	光源による色の違いを調整できます。	AUTO/[マニュアル]/[晴天]/[曇天]/[蛍光灯1]/[蛍光灯2]/[蛍光灯3]/[電球]	AUTO	P.84
	[連写] 連写	連続撮影ができます。	[高速連写]/[高画質連写]/[連写]/[AF連写]/OFF	OFF	P.85
	[測光] 測光	カメラが被写体の明るさを測定する方法を変更できます。	[中央重点]/[スポット]/[マルチ]	[中央重点]	P.87
	[AF] AF モード	ピントを合わせるエリアを変更できます。	[中央]/[フリー]/[ワイド]	[中央]	P.87

圧縮率を変更する（画質モード）

用途に合わせて記録画像の圧縮率を変更できます。

設 定	説 明
FINE	圧縮率が低いため画質を優先するモードです。
NORMAL	圧縮率が高いため撮影枚数を優先するモードです。

ダイナミックレンジを設定する（D-Rng ダイナミックレンジ）

撮影する画像のダイナミックレンジを変更できます。広いダイナミックレンジでの撮影は、明暗差の強い建物、コントラストの高い被写体（光と波、強い光と紅葉、青空での人物撮影など）、白い被写体（建物、動物、白い服でのポートレート撮影など）などのシーンに効果的です。

設定	説 明
AUTO	カメラが撮影シーンに応じてダイナミックレンジを 100 ～ 400%に自動的に設定して、撮影します。コントラストの強いシーンでは、白とびや黒つぶれを抑え、広いダイナミックレンジを必要としない雲天や室内では、コントラストのある画像が撮影できます。
R100 100%	指定したダイナミックレンジの広さで撮影します。
R200 200%	
R400 400%	
R800 800%	**EXR モード**で**ダイナミックレンジ優先**を選択している場合のみ設定できます。 **フィルムシミュレーション**を **Velvia** または **ASTIA** に設定すると設定できません。

注意

ダイナミックレンジが広くなるほど、画像にノイズが増えます。状況に応じてダイナミックレンジ設定を使い分けてください。

色合いを調節する（WB ホワイトバランス）

ホワイトバランスを太陽光や照明などの光源に合わせて設定することにより、見た目に近い色で撮影できます（「ホワイトバランス」とは→ 126 ページ）。

設 定	説 明
AUTO	カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。通常の撮影では、**AUTO** をおすすめします。
(カスタム)	白い紙などを使って、自分でホワイトバランスを測定します。特殊な光源を使って撮影するときなど、他のホワイトバランスでは、望ましい結果が得られない場合に適しています（→ 84 ページ）。
☀	晴天の屋外での撮影用です。
(曇天)	曇天や日陰などでの撮影用です。
(蛍光灯1)	昼光色蛍光灯の下での撮影用です。
(蛍光灯2)	昼白色蛍光灯の下での撮影用です。
(蛍光灯3)	白色蛍光灯の下での撮影用です。
(電球)	電球、白熱灯の下での撮影用です。

人物の顔をアップで撮影するときや特殊な光源を使って撮影するときなど、**AUTO** の設定で望んだような結果が得られないときは、光源にあったホワイトバランスを選ぶかカスタムホワイトバランス（→ 84 ページ）をお使いください。

チェック

- フラッシュ発光時のホワイトバランスはフラッシュ用の設定になります（カスタムホワイトバランスを除く）。光源の雰囲気を残したい場合は、フラッシュを発光禁止に設定してください（→ 37 ページ）。
- 撮影環境によって撮影結果が変わります。撮影後は画像を再生して、色味を確認してください。

■ カスタムホワイトバランスを測定する

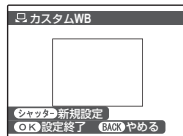
自分でホワイトバランスを測定します。あらかじめ白い紙などの被写体をご用意ください。

メモ：カスタムホワイトバランスの活用例

白い紙の代わりに、色のついたものを使用すると、それを白の基準にするため、色味を意図的に変更することができます。

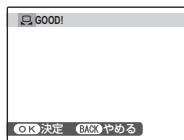
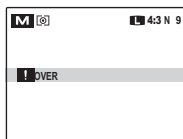
1 撮影メニューから カスタムホワイトバランスを選びます。

2 白い紙などの被写体を画面いっぱいに表示します。

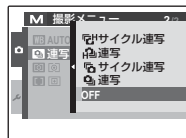
メニューを使いこなす

3 シャッターボタンを全押しして測定します。

メモ

前回取得したホワイトバランスを使用するには、シャッターボタンの代わりに **MENU/OK** ボタンを押します。

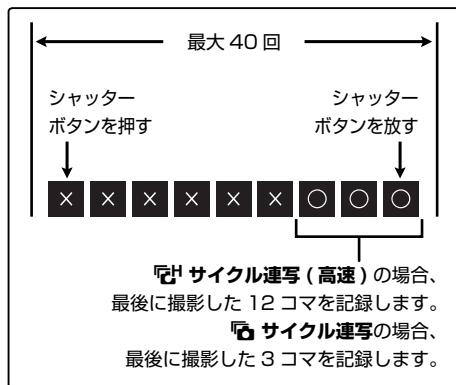
4 「**GOOD!**」と表示されたら、**MENU/OK** ボタンを押して決定します。

「ＯＶＥＲ」または「UNDER」と表示された場合は、ホワイトバランスを正しく測定できていません。

「OVER」と表示されたときは「－（マイナス）」側に、「UNDER」と表示されたときは「＋（プラス）」側に露出補正 (→ 34 ページ) してから、再度測定してください。

連続撮影する（連写）

動いている被写体などを連続して撮影するのに適しています。

チェック

- フラッシュは発光禁止になります。ただし、**連写**を **OFF** にすると、連写を設定する前のフラッシュ設定に戻ります。
- 連写速度は、シャッタースピードによって異なります。
- **サイクル連写（高速）**または**サイクル連写**でセルフタイマーを使うと、1 コマしか撮影されません。

■ サイクル連写 (高速)/ サイクル連写

シャッターボタンを押している間、最大 40 コマ連続して撮影します。このうち、**サイクル連写 (高速)**の場合は最後の 12 コマを、**サイクル連写**の場合は最後の 3 コマを記録します。

■ 連写 (高速)/ 連写

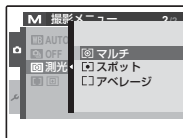
連写 (高速) の場合は、シャッターボタンを押している間、最大 12 コマを連続して撮影します。**連写**の場合は、シャッターボタンを押している間、最大 3 コマを連続して撮影します。

チェック：サイクル連写 (高速)、サイクル連写、連写 (高速)、連写

- ピントと明るさは、1 コマ目を撮影したときに決定されます。
- 撮影できる画像の枚数は、内蔵メモリーやメモリーカードの空き容量によって異なります。
- 撮影後、液晶モニターに撮影結果が表示されます。

メニューを使いこなす

明るさの測定方法を変更する（測光）

カメラが被写体の明るさを測定する方法を変更できます。撮影状況により、適正な明るさ（露出）にならないときに使用します。顔キレイナビが **ON** のときは、**測光**は設定できません。

■ マルチ

シーン自動認識により、さまざまな撮影状況で適正な露出が得られます。通常の撮影では、**マルチ**をおすすめします。

■ スポット

画面中央部の露出が最適になるように測光します。逆光時など、被写体と背景の明るさが大きく異なるときなどに使用します。
スポット測光時には、測光したい被写体を画面中央に配置して撮影してください。

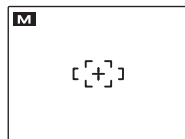
■ アベレージ

画面全体を平均して測光します。構図や被写体により露出が変化しにくい特長があり、白や黒の服を着た人や風景の撮影などに使用します。

ピントを合わせるエリアを変える（AF モード）

ピント合わせのエリアを変更できます。ただし、マクロ撮影時は、ピントは常に中央付近に固定されます。

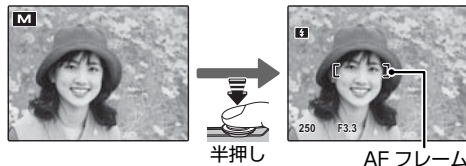
■ センター固定

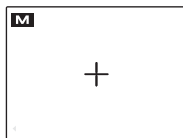
画面中央にある被写体にピントを合わせます。AF/AE ロック撮影 (→ 32 ページ) と併用すると、より効果的です。

■ オートエリア

シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター中央付近にあるコントラストが高い被写体を自動認識して、その被写体にピントを合わせます。

半押し

AF フレーム

メニューを使いこなす

■ 回 コンティニュアス

動きのある被写体の撮影に適しています。＋マーク付近の動いている被写体にピントを合わせ続けます。

チェック

回 **コンティニュアス**では、シャッターボタンを押していなくても、常にピントを合わせ続けるため、次のような現象が起こります。また、バッテリー残量にご注意ください。

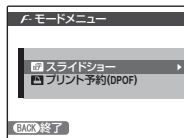
- レンズの駆動音がします。
- バッテリーの消耗が早くなります。

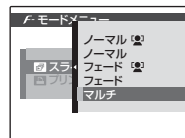
再生の設定を変える — F - モードメニュー（再生）

画像の再生時に使う機能を設定できます。

F - モードメニュー（再生）の使い方

1 ▶ ボタンを押します。
再生モードに切り替わります。

2 F ボタンを押します。
F - モードメニュー（再生）が表示されます。

3 変更する項目を選びます。

4 設定の変更に移ります。

5 設定を変更します。

6 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

メニューを使いこなす

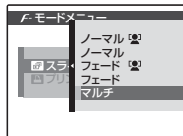
F - モードメニュー（再生）一覧

メニュー項目	機能	設定	工場出荷時	参照ページ
スライドショー	画像を順番に自動再生します。	ノーマル / ノーマル / フェード / フェード / マルチ	マルチ	P.91
プリント予約（DPOF）	DPOF や PictBridge 対応のプリンターでプリントする画像を指定します。	日付あり設定 / 日付なし設定 / 全コマ解除	日付あり設定	P.74

メニューを使いこなす

連続して再生する（スライドショー）

撮影した画像を順番に自動再生します。

- スライドショーの種類を指定して **MENU/OK** ボタンを押すと、スライドショーが開始します。
- 途中でスライドショーを中止するには、**MENU/OK** ボタンを押します。

メニュー項目	機 能
ノーマル / フェード	◀ または ▶ を押してコマ送りできます。フェードを選択すると、画像がフェードアウトしながら、切り替わります。
ノーマル / フェード	◀ または ▶ を押してコマ送りできます。顔キレイナビ（→ 30 ページ）で撮影した画像の場合は、検出した顔も拡大表示して再生します。
マルチ	複数コマを一度に表示できます。

メモ：ガイダンス

DISP/BACK ボタンを押すと、液晶モニターにガイダンスが表示されます。

チェック

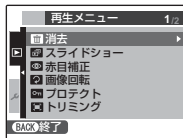
- 動画は自動的に再生が始まり、再生が終了すると次の画像に進みます。
- スライドショー中は、自動電源 OFF になりません。

再生の設定を変える — 再生メニュー

画像の再生時に使う機能を設定できます。

再生メニューの使い方

1 ▶ ボタンを押します。
再生モードに切り替わります。

2 **MENU/OK** ボタンを押します。
再生メニューが表示されます。

3 変更する項目を選びます。

4 設定の変更に移ります。

5 設定を変更します。

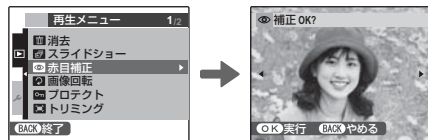
6 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

再生メニュー一覧

	メニュー項目	機能	参照ページ
1/2	消去	画像を 1 コマずつ消去したり、全コマまとめて消去できます。	P.56
	スライドショー	画像を順番に自動再生します。	P.91
	赤目補正	顔キレイナビで撮影した画像の赤目を補正します。	P.94
	画像回転	画像を回転させます。	P.95
	プロテクト	誤って画像を消去しないように、画像をプロテクトします。	P.96
	トリミング	必要な部分を切り抜いた画像のコピーを作ります。	P.97
2/2	リサイズ	画像のサイズを小さくします。	P.98
	画像コピー	内蔵メモリーとメモリーカード間で、画像をコピーします。	P.98
	ボイスメモ	画像に音声メモをつけます。	P.100
	プリント予約（DPOF）	DPOF や PictBridge 対応のプリンターでプリントする画像を指定します。	P.74

赤目画像を補正する（ 赤目補正 ）

顔キレイナビ (→ 30 ページ) で撮影した画像（ が表示されている画像）の赤目を補正できます。画像の再生時に赤目を補正したい画像を選んでから、再生メニューで **赤目補正**を選んでください。

MENU/OK ボタンを押すと、赤目を検出してから検出された赤目が補正されます。

赤目補正が完了すると、赤目補正した画像は別ファイルとして保存されます。

チェック

- 顔が検出できないときや被写体によっては、赤目補正できなかったり、補正した結果に差が生じることがあります。
- 顔を検出する人数が多い場合は、処理に時間がかかることがあります。
- 他のカメラで撮影した画像（ が表示されている画像）は、赤目補正できません。
- 赤目補正済みの画像（ が表示されている画像）は、それ以上赤目補正できません。

メニューを使いこなす

画像を回転する（画像回転）

縦位置で撮った画像を、液晶モニターに縦位置で表示できるように回転させます。

画像の再生時に回転したい画像を選んでから、再生メニューで **画像回転**を選んでください。

1 画像を回転させます。

▼ を押すと画像は時計回りに 90° 回転します。▲ を押すと反時計回りに 90° 回転します。

2 **MENU/OK** ボタンを押して決定します。

回転を取り消すには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

次に同じ画像を再生させると、自動的に回転して表示されます。

チェック

- プロテクトされた画像は回転できません。プロテクトを解除してから回転させてください（→ 96 ページ）。
- 他のカメラで撮影した画像は回転できないことがあります。また、他のカメラやパソコンで再生する場合は、画像は回転表示しません。

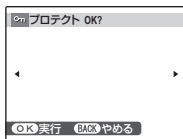
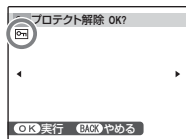
メニューを使いこなす

画像を保護する（ プロテクト）

画像を誤って消去しないように、大切な画像にプロテクトを設定して保護できます。

■ 設定 / 解除

選んだ画像にプロテクトをかけたり解除したりします。

1 プロテクトする画像を選びます。

プロテクト
されていない画像

プロテクト
されている画像

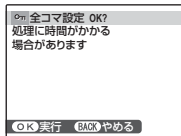
2 **MENU/OK** ボタンを押して、画像にプロテクトを設定します。

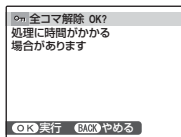
もう一度 **MENU/OK** ボタンを押すと、プロテクトを解除します。

3 手順 1 と 2 を繰り返して、必要に応じて他の画像にもプロテクト設定します。

設定を終了するには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

■ 全コマ設定

MENU/OK ボタンを押すと、すべての画像がプロテクトされます。

■ 全コマ解除

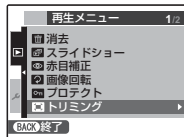
MENU/OK ボタンを押すと、すべての画像のプロテクト設定を解除します。

チェック

画像の数が多いと、**全コマ設定**や**全コマ解除**に時間がかかることがあります。操作を中止するには、**DISP/BACK** ボタンを押してください。

注意

メモリーカードや内蔵メモリーをフォーマット（→ 106 ページ）すると、プロテクトした画像も消去されます。

画像の一部を切り抜く（ トリミング）

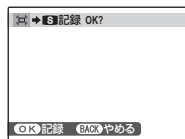
撮影した画像の必要な部分をトリミングする（切り抜く）ことができます。画像の再生時にトリミングしたい画像を選んでから、再生メニューで **トリミング**を選んでください。

1 ズームレバーで画像を切り抜きたい大きさに拡大します。

2 切り抜きたい部分に移動します。

ナビゲーションで現在の表示位置がわかります。

トリミングを中止するには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

3 **MENU/OK** ボタンを押します。

トリミング後の記録画素数（M、S、640）が液晶モニター上部に表示されます。

4 もう一度 **MENU/OK** ボタンを押します。

トリミングした画像が別ファイルとして保存されます。

メモ：顔キレイナビ

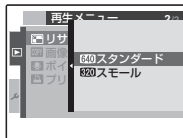
顔キレイナビ（→ 30 ページ）で撮影した画像（ が表示された画像）を選んで、 ボタンを押すと、ピントの合った顔の部分が拡大表示されます。主被写体を切り抜きたいときに便利です。

チェック

拡大率が大きければトリミング画像の記録画素数は小さくなります。記録画素数が 640 のときは、**OK 実行**が黄色で表示されます。元画像の **画像サイズ**が **3:2** または **16:9** のときも、トリミングした画像の縦横比は、4：3 になります。

メニューを使いこなす

画像のサイズを小さくする（リサイズ）

撮影した画像のサイズを小さくできます。画像の再生時にリサイズしたい画像を選んでから、再生メニューで **リサイズ**を選んでください。

1 **640 スタンダード**または **320 スモール**を選びます。

2 **MENU/OK** ボタンを押します。

3 もう一度 **MENU/OK** ボタンを押します。
リサイズされた画像が別ファイルとして保存されます。

画像をコピーする（COPY 画像コピー）

カメラの内蔵メモリーとカメラに装着したメモリーカード間で、画像をコピーすることができます。

1 **IN カメラ ➡ SD カード**または **SD カード ➡ IN カメラ**を選びます。

2 設定の変更に移ります。

3 **1 コマ**または**全コマ**を選びます。

4 **MENU/OK** ボタンを押します。

メニューを使いこなす

■ 1コマコピーする（1 コマ）

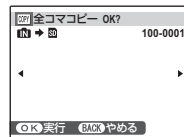
選択した画像をコピーします。

1 コピーする画像を選びます。

2 **MENU/OK** ボタンを押して、表示中の画像をコピーします。

3 手順1と2を繰り返して、必要に応じて他の画像もコピーします。
コピーを終了するには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

■ 全コマをコピーする（全コマ）

すべてのコマをコピーするには、**MENU/OK** ボタンを押します。コピーを中止して終了するには、**DISP/BACK** ボタンを押します。

注意

- コピー先の空き容量がなくなると、コピーを終了します。
- **プリント予約（DPOF）**（→ 74 ページ）していた画像をコピーした場合、プリント予約の設定はコピーされません。

メモ：メモリーカード間の画像のコピー

まず、**画像コピー**でメモリーカードから内蔵メモリーに画像をコピーします。その後、メモリーカードを交換して、内蔵メモリーの画像を新しいメモリーカードにコピーします。

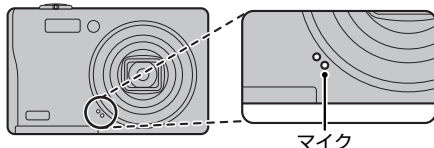
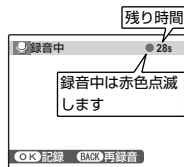
画像に音声を入れる（ ボイスメモ）

静止画に最長 30 秒間の音声を入れたり、録音した音声を再生（→ 101 ページ）することができます。画像の再生時にボイスメモを録音したい画像を選んでから、再生メニューで **ボイスメモ**を選んでください。

チェック

動画やプロテクト設定した画像には、ボイスメモは録音できません。ボイスメモを録音する前に、プロテクトを解除してください。

1 マイクが顔の正面に来るように、カメラを持ちます。

カメラを約 20cm 離すと、うまく録音できます。

2 **MENU/OK** ボタンを押して、録音を始めます。

3 もう一度 **MENU/OK** ボタンを押して、録音を終了します。

30 秒経過しても録音は終了します。

チェック

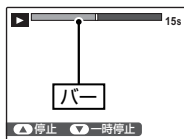
- ボイスメモ付きの画像を選んだときは、再録音の選択画面が表示されます。ボイスメモを上書きしたいときは、再録音を選びます。

- ボイスメモの録音形式は、PCM 形式 WAVE ファイル（→ 126 ページ）です。

■ ボイスメモを再生する

録音したボイスメモを再生します。

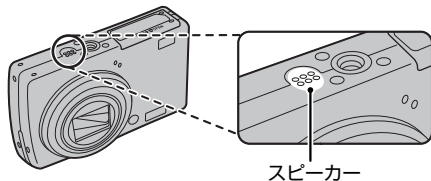
1 ボイスメモ付きの画像（🎙 が表示された画像）を選びます。

2 ▼ を押して、ボイスメモを再生します。

液晶モニターに進行状況を示すバーが表示されます。

☛ チェック

他のカメラで録音したボイスメモは再生できないことがあります。

注意

スピーカーをふさがないでください。音が聞き取りにくくなります。

ボイスメモ再生時には、次の操作を行えます。

機能	操作	説明
再生 / 一時停止	▼	再生を開始します。再生中にもう一度 ▼ を押すと、一時停止します。
停止	▲	再生を終了します。
早送り / 巻き戻し	◀ ▶	再生中に ◀ または ▶ を押すと、早送り / 巻き戻しします。
コマ送り	◀ ▶	停止中に ◀ または ▶ を押すと、他の画像を表示します。
音量調整	MENU/OK ＋ ▲ ▼	再生中に **MENU/OK** ボタンを押すと、再生音量の設定画面が表示されます。▲ または ▼ を押してボイスメモの再生音量を選び、もう一度 **MENU/OK** ボタンを押して決定します。 • ボイスメモの再生音量は、セットアップメニューの**再生音量**でも設定できます（→ 108 ページ）。

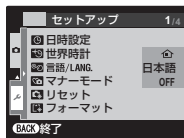
カメラの設定を変える — セットアップメニュー

日時の設定、モニターの明るさなど、カメラの基本的な設定を変えられます。

セットアップメニューの使い方

1 **MENU/OK** ボタンを押します。
撮影 / 再生メニューが表示されます。

2 左側のタブを反転させます。

3 🔧 を選びます。
セットアップメニュー画面に変わります。

4 変更する項目を選びます。

5 設定の変更に移ります。

6 設定を変更します。

7 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

8 **DISP/BACK** ボタンを押して、撮影 / 再生画面に戻ります。

セットアップメニュー一覧

	メニュー項目	機能	設定	工場出荷時	参照ページ
1/4	**日時設定**	日付と時刻を設定します。日時の設定方法については、「使用する言語と日時を設定する」の手順３以降をご覧ください。	—	—	P.22
	世界時計	時差を設定します。	/		P.105
	言語/LANG.	画面に表示する言語を設定します。	ENGLISH/ 日本語	日本語	P.22
	マナーモード	フラッシュと AF 補助光を発光禁止にし（撮影モード を除く）、操作音やシャッター音、動画やボイスメモの再生音を OFF に設定します。	ON/OFF	OFF	P.28
	リセット	**日時設定**、**世界時計**、**配色設定**、**ビデオ出力**以外のすべての設定を工場出荷時の設定に戻します。▶ を押すと確認画面が表示されます。リセットするには、**実行**を選んで **MENU/OK** ボタンを押します。	—	—	—
	フォーマット	内蔵メモリーまたはメモリーカードを初期化します。	—	—	P.106
2/4	**撮影画像表示**	撮影直後の確認画面の表示時間を設定できます。拡大画面でピントの状態を確認できる**画像拡大チェック**も選べます。	拡大 /1.5 秒 / 3 秒 /OFF	1.5 秒	P.106
	コマ NO.	コマ番号の付けかたを設定します。	連番 / 新規	連番	P.107
	操作音量	ボタンなどを操作するときの音量を設定します。音を消したいときは、OFF を選びます。	OFF/ / /		—
	シャッター音量	シャッターをきるときの音量を設定します。音を消したいときは、OFF を選びます。	OFF/ / /		—
	シャッター音	シャッターをきるときの音を設定します。	♪1/♪2	♪1	—
	再生音量	動画やボイスメモ再生時の音量を設定します。	—	7	P.108

	メニュー項目	機能	設定	工場出荷時	参照ページ
3/4	モニター明るさ	画面の明るさを設定します。	—	0	P.108
	自動電源 OFF	何も操作していないときに、自動的に電源がオフになるまでの時間を設定します。	5 分 /2 分 /OFF	2 分	P.108
	ブレ防止モード	手ブレを軽減します。 1 **常時**を選ぶと、撮影モードでは常にブレ軽減を行います。2 **撮影時**を選ぶと、シャッターボタンの半押し時のみブレ軽減を行います。	1 常時 / 2 撮影時 /OFF	1 常時	P.25
	赤目補正	暗い場所でフラッシュ撮影したときに、「赤目現象」を軽減するよう設定します。	ON/OFF	ON	P.38
	デジタルズーム	デジタルズームを使用するかどうかを設定します。	ON/OFF	OFF	P.109
	AF 補助光	AF 補助光を使用するかどうかを設定します。	ON/OFF	ON	P.33
4/4	補正前画像記録	**顔キレイナビ ON** でかつ **赤目補正 ON** での撮影時に、赤目補正前の画像も同時に記録するかどうかを設定します。	ON/OFF	OFF	—
	配色設定	メニューやカーソルなどの色を設定できます。	—	ブルー	—
	撮影ガイド表示	機能の説明を表示するかどうかを設定します。	ON/OFF	ON	—
	ビデオ出力	ビデオ出力を **NTSC** にするか **PAL** にするかを設定します。日本国内で使用するときは、**NTSC** を選んでください。	NTSC/PAL	NTSC	—
	パフォーマンス	バッテリー寿命、ピント合わせのスピード、液晶モニターの見やすさの中で、カメラが何を優先して電力を消費するかを設定できます。	//		P.109

世界時計

旅行先で、簡単にカメラの時計を現地時間に合わせることができます。

1 ✈ **現地**を選びます。

2 時差設定に移ります。

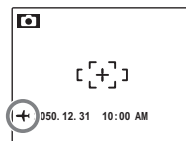
3 時差を設定します。

◀ または ▶ で「+」か「−」、時間、分を選び、▲ または ▼ を押して、設定を変更します。時差は 15 分単位で設定できます。

4 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。

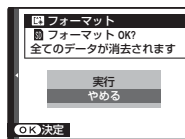
5 現地時間とホームの時間を切り換えます。

カメラの時計をお住まいの地域の時間に戻すには、世界時計画面で ⌂ **ホーム**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。現地時間にするには、✈ **現地**を選び **DISP/BACK** ボタンを押します。

✈ **現地**を選ぶと、電源を入れるたびに、液晶モニターに ✈ と日付が約 3 秒間黄色で表示されます。

旅行先から戻ったら、世界時計の設定を必ず ⌂ **ホーム**に戻して、日時を再確認してください。

メニューを使いこなす

フォーマット

カメラにメモリーカードが入っているときは、メモリーカードをフォーマットします。メモリーカードが入っていないとき（IN が表示されているとき）は、内蔵メモリーをフォーマットします。フォーマットを行うには、**実行**を選んで **MENU/OK** ボタンを押します。

注意
- フォーマットすると、プロテクトされている画像を含むすべてのファイルが消去されます。誤ってフォーマットすると元には戻せません。消去したくない画像は、パソコンにコピーしてください。
- フォーマットの途中で、バッテリーカバーを開けないでください。

撮影画像表示

撮影直後の確認画面の表示時間を設定できます。また、拡大画面を表示してピントの状態を確認できる**画像拡大チェック**も選べます。

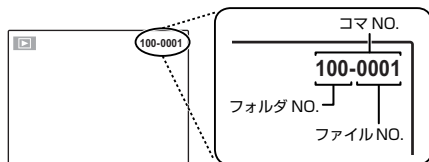
メニュー項目	機 能
3 秒	撮影直後、画像が約 3 秒間表示され、その後記録されます。
1.5 秒	撮影直後、画像が約 1.5 秒間表示され、その後記録されます。
画像拡大チェック	撮影直後に画像が拡大表示されます。**MENU/OK** ボタンを押すと、撮影画像に戻ります。再生時のズーム（拡大）操作については、52 ページをご覧ください。 • ピントが合っているか確認したいときに便利です。 • 以下の場合、画像拡大チェック機能は働きません。 - **連写**が **OFF** 以外のとき（→85ページ） - 撮影モードが N⚡、、 のとき
OFF	撮影直後に画像を表示しません。

チェック
- **3 秒**、**1.5 秒**のときに表示される画像は、実際に記録される画像と色味が若干異なることがあります。
- **連写**では、撮影後、必ず撮影結果が表示されます。

メニューを使いこなす

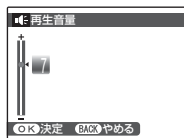
コマ NO.

コマ NO. の付け方を設定します。コマ NO. とは、画像ファイル名に付けられた番号（フォルダ NO. +ファイル NO.）のことです。画像の再生中は、次の図のように、コマ NO. が表示されます。

メニュー項目	機 能
連番	メモリーカードまたは内蔵メモリー内の最大ファイル NO. に 1 を足したファイル NO. が付けられます。メモリーカードを交換したときは、次のファイル NO. とメモリーカード内の最大ファイル NO. のいずれか大きい方の番号を付けます。**連番**に設定すると、ファイル名の重複を防ぐことができます。
新規	新しいメモリーカードを入れる度に、ファイル NO. が 0001 から付けられます。

チェック

- **リセット**（→ 103 ページ）を行うと、**連番**になりますがコマ NO. はリセットされません。
- コマ NO. が「999-9999」になると、それ以上撮影できなくなります（→ 122 ページ）。
- 他のカメラで撮影した画像は、コマ NO. 表示が異なることがあります。

再生音量

▲または▼を押して動画とボイスメモの再生音量を選び、**MENU/OK** ボタンで決定します。

モニター明るさ

▲または▼を押して画面の明るさを選び、**MENU/OK** ボタンで決定します。

自動電源 OFF（オートパワーオフ）

設定した時間（2 分間または 5 分間）カメラを操作しないと、自動的に電源がオフになります。**OFF** を選ぶと、例外を除いて電源は自動的に切れません。バッテリーを長持ちさせたいときは、**自動電源 OFF** を **OFF** 以外に設定してください。**自動電源 OFF** の設定にかかわらず、プリンターやパソコンと接続しているときやスライドショーの再生中は電源はオフにはなりません。

メモ：再び電源をオンにするには

撮影するときは、**ON/OFF**（電源）ボタンを押します。再生するときは、▶ ボタンを長押しします（→ 21 ページ）。

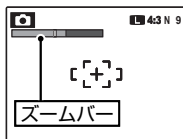
チェック

以下のときは、**自動電源 OFF** を **OFF** に設定しても 5 分で電源が自動的に切れます。

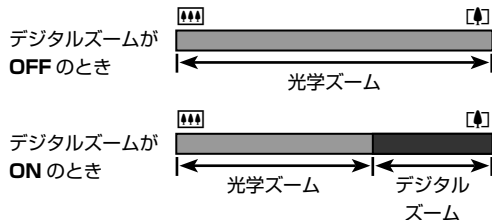
- **パフォーマンス**で **AF スピードアップ**または **モニターパワーアップ**に設定しているとき
- **EXR モード**で EXR AUTO に設定しているとき
- **動画**で**スタンバイ**しているとき
- **顔キレイナビ**を **ON** にしているとき
- 撮影モードを **ぼかしコントロール**、**美肌**に設定しているとき

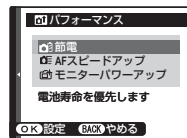
メニューを使いこなす

デジタルズーム

静止画を撮影しているときに **ON** にすると、光学ズームの望遠端（最大倍率）でズームレバーを [T]（望遠）側へ回すことにより、デジタルズームを使用できます。デジタルズームを解除するには、光学ズーム域に入るまで、ズームレバーを [W]（広角）側へ回します。

注意

デジタルズームを使うと、光学ズームに比べて画質が劣化します。

■ ズームバー表示

カメラのパフォーマンスを切り換える（パフォーマンス）

バッテリー寿命、ピント合わせのスピード、液晶モニターの見やすさの中で、カメラが何を優先して電力を消費するかを設定できます。

■ 節電

消費電力を抑え、バッテリーを長持ちさせたいときは、**節電**を選びます。

- 液晶モニターに 1 秒間に表示するコマ数を最少に抑えます。
- 高温下で長時間連続撮影する場合は、**節電**に設定してください。他のモードで長時間連続使用すると、CCD の性質上、縦筋状のノイズが撮影される場合があります。

■ AF スピードアップ

ピント合わせの時間を短くしてすばやく撮影したいときは、**AF スピードアップ**を選びます。シャッターチャンスを逃したくないときに便利です。消費電力が増えるため、バッテリー残量にご注意ください。

■ モニターパワーアップ

液晶モニターを明るく見やすくしたいときは、**モニターパワーアップ**を選びます。表示もなめらかになります。消費電力が増えるため、バッテリー残量にご注意ください。

AF スピードアップまたは **モニターパワーアップ**に設定すると、液晶モニターにアイコンが表示されます。

チェック

- **節電**の場合は約 10 秒間、**AF スピードアップ**または **モニターパワーアップ**の場合は約 30 秒間、カメラを操作しないと、自動的に液晶モニターが暗くなります。ボタンを操作すると、通常の明るさに戻ります。
- **顔キレイナビ**（→ 30 ページ）を **ON** のときは、**節電**は無効になります。

カメラで使えるアクセサリー

別売アクセサリー

このカメラは、さまざまな富士フイルムおよび他社製品に対応しています。

DIGITAL CAMERA
FINEPIX
F70 EXR

テレビで見る

専用A/Vケーブル
で接続

モニターテレビ(市販品)

パソコンに接続して
画像を保存する

USBケーブル(付属品)で接続

パーソナルコンピューター
(市販品)

SDカードスロットまたはカードリーダーで接続

プリントする

USBケーブル
(付属品)で接続

PictBridge

ピクトブリッジ対応
プリンター(市販品)

SD/SDHCメモリーカード(市販品)

DPE

FUJICOLOR
デジカメプリント

デジタルカメラ
プリントサービス
(FDiサービス)取扱店

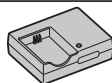
手軽に高画質プリントができる
フジカラーデジカメプリントサービス(FDiサービス)
詳細は http://fujicolorprint.jp をご覧ください。

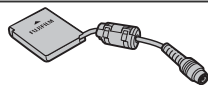
プリンター(市販品)

* デジタルカメラの画像は、従来の写真と同様にプリント取扱店でプリントできます。
* 本製品は PRINT Image Matching Ⅱに対応しています。

別売アクセサリー一覧

このカメラでは、次の富士フイルム製別売アクセサリーを使用できます。

充電式バッテリー NP-50：リチウムイオンタイプの薄型充電式電池です。	
バッテリーチャージャー BC-50：充電式バッテリー NP-50 を短時間で充電します。充電時間は約 140 分（+ 23℃において）です（AC100V ～ 240V、50/60Hz 対応）。	
AC パワーアダプター AC-5VX：長時間の撮影、再生時、パソコンとの接続時にお使いください（AC100V ～ 240V、50/60Hz 対応）。 このカメラでご使用になる場合は、必ず DC カプラー CP-50 と併用してお使いください。	
DC カプラー CP-50：長時間の撮影、再生時、パソコンとの接続時に AC パワーアダプターと併用してお使いください。	

※ 最新情報については、富士フイルムホームページ（http://fujifilm.jp/）をご覧ください。

困ったときは

トラブルシューティング /FAQ

カメラの動作がおかしいときは、まず次の表の内容をご確認ください。処置を行っても改善されない場合は、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。

■ 電源とバッテリー

症状		ここをチェック！	処置	ページ
電池、電源について	**ON/OFF**（電源）ボタンまたは ▶（再生）ボタンを押しても電源がオンになりません。	バッテリーが消耗していませんか？	充電するか、充電済みのバッテリーを使ってください。	14、24
		バッテリーを正しい向きで入れていますか？	バッテリーを正しい方向で入れ直してください。	16
		バッテリーカバーはきちんと閉まってますか？	バッテリーカバーをしっかり閉めてください。	16
		AC パワーアダプターや DC カプラーが正しく接続されていますか？	AC パワーアダプターや DC カプラーをつなぎ直してください。	—
	バッテリーの減りが早いです。	非常に寒いところでカメラを使っていませんか？	バッテリーをポケットなどで温めておいて、撮影の直前に取り付けてください。	114
		バッテリーの端子が汚れていませんか？	バッテリーの端子部分を乾いたきれいな布で拭いてください。	—
		撮影メニューの **パフォーマンス**が **AF スピードアップ**または **モニターパワーアップ**になっていませんか？	**AF スピードアップ**または **モニターパワーアップ**して撮影すると、バッテリーの消耗が早くなります。	109
		撮影モードが EXR AUTO に設定されていませんか？	撮影モードが EXR AUTO に設定されていると、バッテリーの消耗が早くなります。	
		撮影メニューの **AF モード**を **コンティニュアス**に設定していませんか？	**コンティニュアス**で撮影すると、バッテリーの消耗が早くなります。	87
		同じバッテリーを長時間使っていませんか？	バッテリーの寿命の可能性があります。新品のバッテリーと交換してください。	—
	使用中に電源がオフになってしまいました。	バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。	14、24
		AC パワーアダプターや DC カプラーが正しく接続されていますか？	AC パワーアダプターや DC カプラーをつなぎ直してください。	—

症 状		ここをチェック！	処 置	ページ
充電について	充電が開始されません。	バッテリーは入っていますか？	バッテリーを入れてください。	16
		バッテリーは正しい向きで入っていますか？	バッテリーを正しい方向で入れ直してください。	16
		プラグは正しくコンセントに接続されていますか？	充電器のプラグを正しくコンセントに接続してください。	14
	充電時間がかかりすぎます。	非常に寒いところで充電を行っていませんか？	低温時は、充電時間が長くなるときがあります。	－
	充電中に充電ランプが点滅して充電できません。	バッテリーの端子が汚れていませんか？	バッテリーをいったん取り出して、端子部分を乾いたきれいな布で拭いてから、入れ直してください。	－
		バッテリーの寿命または故障の可能性があります。	新しいバッテリーと交換してください。それでも充電できないときは、弊社サポートセンターにお問い合わせください。	

■ メニューなどの設定時

症 状	ここをチェック！	処 置	ページ
メニューが英語で表示されています。	セットアップメニューの **言語/LANG.** が **ENGLISH** になっていませんか？	言語設定を**日本語**にしてください。	22、102

■ 撮影時

症 状		ここをチェック！	処 置	ページ
基本撮影について	シャッターボタンを押しても撮影できません。	撮影可能枚数が0になっていませんか？	新しいメモリーカードを入れるか、不要なコマを消去してください。	18、56
		メモリーカード、内蔵メモリーはフォーマットされていますか？	カメラでフォーマットしてください。	106
		メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れていませんか？	メモリーカードの接触面を乾いた柔らかい布で拭いてください。	—
		メモリーカードが壊れている可能性があります。	新しいメモリーカードを入れてください。	18
		バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。	14、24
		電源がオフになっていませんか？	電源をオンにしてください。	21
	撮影後、映像が消えて黒い画面になりました。	フラッシュ撮影しましたか？	フラッシュを充電するために黒い画面になることがありますので、そのままお待ちください。	28
ピントについて	ピントを合わせられません。	近距離のものを撮影しようとしていませんか？	マクロを設定してください。	36
		マクロのまま、遠くのものを撮影しようとしていませんか？	マクロを解除してください。	
		オートフォーカスの苦手な被写体（→ 33 ページ）を撮影しようとしていませんか？	AF/AE ロック撮影してください。	32
EXR AUTO モードについて	指定した画像サイズで保存されません。	**画像サイズ**を AUTO に設定していませんか？	EXR AUTO モードの特徴のひとつです。 EXR AUTO モードでは、被写体のシーンに応じて、カメラで最適な画素数や、ISO 感度などを決めます。記録画素数を固定したい場合は、**画像サイズ**を M または S に設定するか、📷 や **M**モードに設定してください。	43

困ったときは

症 状		ここをチェック！	処 置	ページ
顔キレイナビ（顔検出機能）について	顔キレイナビ（顔検出機能）が設定できません。	顔キレイナビ（顔検出機能）が設定できない撮影モードになっていませんか？	撮影モードを変更してください。	41
	顔を検出できません。	サングラス、帽子や前髪などで顔の一部が隠れていませんか？	なるべく顔の全体が見えるようにしてください。	30
		撮影したい人物の顔が、構図内で小さすぎませんか？	顔が大きく写るようにもうすこし近づいて撮影してください。	
		人物の顔が横向きまたは斜めに傾いていませんか？	顔が正面を向いているほうが、検出しやすくなります。	
		カメラが傾いていませんか？	カメラをまっすぐに構えたほうが、検出しやすくなります。	25
		人物の顔が暗くないですか？	できるだけ明るい条件で撮影してください。	—
	ピントを合わせたい顔にピントが合いません。	複数の顔が検出されているときに、中央付近にない顔にピントを合わせようとしていませんか？	合わせたい顔が画面の中央に来るように構図を変えてください。構図を変えたくない場合は、顔キレイナビを使わずに AF/AE ロック撮影してください。	32
マクロ（近距離）について	マクロ（近距離）が設定できません。	マクロが設定できない撮影モードになっていませんか？	撮影モードを変更してください。	41
画像の記録について	撮影した画像や動画が記録されません。	カメラの電源が入っているときに AC パワーアダプターの接続や取り外しをしませんでしたか？	AC パワーアダプターや DC カプラーの接続および取り外しはカメラの電源が入っていないときに行ってください。メモリーカードの破損、パソコン接続時の誤作動の原因になります。	—
連写について	連写に設定したのに、1 コマしか撮れません。	**サイクル連写**または **サイクル連写（高速）**に設定して、セルフタイマー撮影しませんでしたか？	**サイクル連写**および **サイクル連写（高速）**は、セルフタイマーと併用すると、1 コマしか撮影されません。	85

困ったときは

症 状		ここをチェック！	処 置	ページ
フラッシュについて	フラッシュが発光しません。	フラッシュが発光しない撮影モードになっていませんか？	撮影モードを変更してください。	41
		バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。	14、24
		連写が設定されていませんか？	**連写**を **OFF** に設定してください。	85
		マナーモードに設定されていませんか？	マナーモードを解除してください。	28
		フラッシュ設定が（発光禁止）になっていませんか？	フラッシュを（発光禁止）以外に設定してください。	37
	使いたいフラッシュ設定を選べません。	使いたいフラッシュを選べない撮影モードになっていませんか？	撮影モードを変更してください。	41
		マナーモードに設定されていませんか？	マナーモードを解除してください。	28
	フラッシュが発光したのに撮影した画像が暗い。	被写体から離れすぎていませんか？	フラッシュ撮影可能距離内で撮影してください。	130
		フラッシュを指などでふさいでいませんか？	カメラを正しく構えてください。	25
		高速シャッタースピードで撮影していませんか？	シャッタースピードが 1/1000 秒より高速の場合は、フラッシュを発光しても暗くなることがあります。シャッタースピードを 1/1000 秒以下に設定してください。	48
撮影した画像の異常について	画像がぼやけています。	レンズに指紋などの汚れがついていませんか？	レンズを清掃してください。	—
		レンズに指などがかかっていませんか？	レンズに指がかからないようしてください。	25
		撮影時に AF フレーム（赤点灯）と !AF が表示されていませんでしたか？	しっかりとピントを合わせてから撮影してください。	27、121
		撮影時に が表示されていませんでしたか？	手ブレの可能性があります。フラッシュ撮影をするか、三脚を使用してください。	37、121
	画像に点状のノイズがあります。	気温の高いところでスローシャッター（長時間露光）撮影しませんでしたか？	CCD の特性によるもので、故障ではありません。	—
	画像に縦筋状のノイズが撮影されます。	高温環境で連続使用をしていませんか？	しばらく電源オフにした後でご利用ください。	21

■ 動画時

症 状		ここをチェック！	処 置	ページ
動画撮影について	カメラの動作音が気になります。	**AF モード**が **コンティニュアス**に設定されていませんか？	**AF モード**を **センター固定**に設定してください。	59、87

■ 再生時

症 状		ここをチェック！	処 置	ページ
1 コマ再生について	画像が粗く表示されます。	他のカメラで記録した画像ではありませんか？	他のカメラで記録した画像はきれいに表示できないことがあります。	—
	拡大表示できません。	リサイズした画像ではありませんか？	リサイズした画像は、再生ズームができません。	—
		他のカメラで記録した画像ではありませんか？	他のカメラで記録した画像は再生ズームができないことがあります。	—
動画・ボイスメモ再生について	カメラから音が出ません。	カメラの再生音量の設定が小さくなっていませんか？	再生音量を調節してください。	108
		撮影 / 録音中にマイクを手などでふさいでいませんでしたか？	撮影 / 録音時はマイクをふさがないでください。	59、100
		再生中にスピーカーを手などでふさいでいませんか？	再生中はスピーカーをふさがないでください。	60、101
消去について	選択した画像を消去できません。	プロテクトされていませんか？	プロテクトを解除してください。プロテクトを解除するときは、プロテクトを行なったカメラをお使いください。	96
	全コマ消去したのに画像が残っています。			
コマ NO. について	コマ NO. の連番が機能しません。	バッテリーやメモリーカードを交換するときに電源を切らずにバッテリーカバーを開けませんでしたか？	バッテリーやメモリーカード を交換するときは、必ず電源をオフにしてください。電源を切らずにバッテリーカバーを開けると、コマ NO. の連番が機能しないことがあります。	107

■ 接続時

症 状		ここをチェック！	処 置	ページ
テレビとの接続について	テレビに画像、音声が出ません	カメラとテレビが正しく接続できていますか？	確認して正しく接続し直してください。	61
		動画再生中に専用 A/V（音声 / 映像）ケーブルを接続しませんでしたか？	動画再生をいったん停止させてから接続し直してください。	60、61
		テレビの入力が「テレビ」になっていませんか？	テレビの入力を「ビデオ」にしてください。	—
		セットアップメニューの NTSC PAL **ビデオ出力**が **PAL** になっていませんか？	日本国内で使用する場合は **NTSC** にしてください。	104
		テレビの音量が小さくなっていませんか？	テレビの音量を調節してください。	—
	テレビの画像が黒白になってしまいました。	セットアップメニューの NTSC PAL **ビデオ出力**が **PAL** になっていませんか？	日本国内で使用する場合は **NTSC** にしてください。	104
パソコンとの接続について	パソコンがカメラを認識しません。	USB ケーブルが正しく接続されていますか？	確認して正しく接続し直してください。	68
プリンターとの接続について	接続したのにプリントできません。	USB ケーブルが正しく接続されていますか？	確認して正しく接続し直してください。	70
		プリンターの電源は入っていますか？	プリンターの電源を入れてください。	—
	1 枚ずつしかプリントされません。	PictBridge 対応のプリンターでプリントしていますか？	プリンターの仕様やプリントサービスによっては、各画像を 1 枚ずつしかプリントできないことがあります。また、日付が入らないことがあります。	—
	日時が印字されません。			
AC アダプター、DC カプラー接続について	デモモード再生開始のメッセージが表示されます。	電源供給時に電源をオンしましたか？	設定した場合スライドショーが再生されます。カメラ操作に戻る場合はシャッターボタンを押してください。	17

■ その他

症 状		ここをチェック！	処 置	ページ
カメラの動作などについて	カメラのボタンなどを操作しても動きません。	一時的に誤作動を起こしている可能性があります。	バッテリー、AC パワーアダプターや DC カプラーをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。	16
		バッテリーの消耗が原因として考えられます。	新しいバッテリーまたは充電済みのバッテリーと交換してください。	14、24
	カメラが正常に作動しなくなってしまいました。	一時的に誤作動を起こしている可能性があります。	バッテリー、AC パワーアダプターや DC カプラーをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。それでも正常に作動しないときは、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。	16、144
音について	音がでません。	マナーモードに設定されていませんか？	マナーモードを解除してください。	28

警告表示

液晶モニターに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示	警告内容	処 置
（赤点灯）	バッテリーの残量が少なくなっています。	充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。
（赤点滅）	バッテリーの残量がありません。	
	シャッタースピードが遅く、手ブレを発生しやすい状態です。	フラッシュ撮影してください。ただし撮影シーンやモードによっては、三脚のご使用をおすすめします。
!AF（赤点灯） AF フレームの形は撮影メニューの設定によって異なります	ピント合わせができません。	• AF/AE ロック機能を使って、同じ距離の他の被写体にピントを合わせてから、構図を変えてください（→ 32 ページ）。 • 暗い場合は被写体から 2m 程度離れて撮影してください。 • 近距離撮影の場合は、 マクロを設定してください。
絞り、シャッタースピード表示（赤点灯）	被写体が明るすぎる、または暗すぎるために適正な明るさで撮影できません。	被写体が暗いときは、フラッシュを使ってください。ただし、適切な明るさ（露出）ではありませんが撮影できます。
フォーカスエラー	カメラが誤作動または故障しています。	• 電源を入れ直してください。 • 電源のオン / オフを繰り返してください。それでも警告表示が消えないときは、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
レンズ制御エラー		
電源を入れ直してください		
カードがありません	メモリーカードが入っていない状態で再生メニューの COPY **画像コピー**を選びました。	カメラにメモリーカードを入れてください。
フォーマットされていません	メモリーカードまたは内蔵メモリーがフォーマットされていません。	メモリーカードまたは内蔵メモリーをカメラでフォーマットしてください（→ 106 ページ）。
	メモリーカードがパソコンでフォーマットされています。	メモリーカードをカメラでフォーマットしてください（→ 106 ページ）。
	メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れています。	メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよく拭いてください。また、フォーマットが必要な場合があります（→ 106 ページ）。それでも警告表示が消えない場合はメモリーカードを交換してください。
	カメラが故障しています。	弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。

警告表示	警告内容	処 置
カードエラー	メモリーカードがカメラでフォーマットされていません。	メモリーカードをカメラでフォーマットしてください（→ 106 ページ）。
	メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れています。	メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよく拭いてください。また、フォーマットが必要な場合があります（→ 106 ページ）。それでも警告表示が消えない場合はメモリーカードを交換してください。
	カメラが故障しています。	弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
	非対応のメモリーカードです。	弊社動作確認済みのメモリーカードを挿入してください。
	メモリーカードが壊れています。	
SD 空き容量がありません	メモリーカードまたは内蔵メモリーに空き容量がないため、画像を記録 / コピーできません。	画像を消去するか、空き容量のあるメモリーカードを使用してください。
IN 空き容量がありません		
メモリーがいっぱいです カードを入れてください		
記録できませんでした	画像を記録する空き容量がありません。	画像を消去するか、空き容量のあるメモリーカードを使用してください。
	メモリーカードまたは内蔵メモリーがフォーマットされていません。	メモリーカードまたは内蔵メモリーをカメラでフォーマットしてください (→ 106 ページ)。
	メモリーカードとカメラ本体の接触異常またはメモリーカードの異常のため記録できません。	メモリーカードを入れ直すか電源の **ON**/**OFF** を繰り返してください。それでも警告表示が消えないときは、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
プロテクトされたカードです	SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっています。	SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチを元に戻し、誤記録防止のロックを外してください (→ 19 ページ)。
動画記録できません	パソコンでフォーマットしたメモリーカードのため、動画記録が間に合いません。	メモリーカードをカメラでフォーマットしてください（→ 106 ページ）。
コマ NO. の上限です	コマ NO. が「999-9999」に達しているため、これ以上撮影できません。	フォーマットしたメモリーカードをカメラに入れて、セットアップメニューの **コマ No.** を**新規**に設定します。撮影すると、コマ No. が「100-0001」から付けられます。**コマ No.** を**連番**に戻すと、引き続き撮影できます。

警告表示	警告内容	処 置
再生できません	正常に記録されていないファイルを再生しようとしました。もしくは他のカメラで記録した静止画または動画を再生しようとしました。	このファイルは再生できません。
	メモリーカード の接触面（金色の部分）が汚れています。	メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよく拭いてください。また、フォーマットが必要な場合があります（→ 106 ページ）。それでも警告表示が消えない場合はメモリーカードを交換してください。
	カメラが故障しています。	弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
枚数制限をこえています	5000 枚以上の画像を日付再生しようとしました。	5000 枚以上の画像は日付再生できません。
プロテクトされています	• プロテクトされているファイルを消去しようとしました。 • プロテクトされているファイルにボイスメモを付けようとしました。 • プロテクトされているファイルを回転しようとしました。	• プロテクトしたファイルは消去 / 回転できません。プロテクトを解除してください（→ 96 ページ）。 • プロテクトしたファイルにボイスメモは付けられません。プロテクトを解除してください（→ 96 ページ）。
! ボイス再生できません	ボイスメモファイルに異常があります。	ボイスメモを再生できません。
	カメラが故障しています。	弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
SD 画像がありません	メモリーカードまたは内蔵メモリーに画像がないときに、メモリーカードまたは内蔵メモリーへ画像をコピーしようとしました。	コピーする画像がないため、画像をコピーすることはできません。
IN 画像がありません		
640 トリミングできません	640 の画像をトリミングしようとしました。	これらの画像はトリミングできません。
トリミングできません	他のカメラで撮影した画像または壊れた画像をトリミングしようとしました。	
640 リサイズできません	640 の画像をリサイズしようとしました。	これらの画像はリサイズできません。
320 リサイズできません	320 の画像をリサイズしようとしました。	
これ以上予約できません	DPOF のコマ設定で 1000 コマ以上のプリント指定をしました。	同一メモリーカード内でプリント指定できるコマ数は 999 コマまでです。別のメモリーカードにプリント予約したい画像をコピーして、プリント予約してください。

警告表示	警告内容	処 置
設定できません **設定できません**	プリント予約できない画像または動画にプリント予約しようとしました。	プリント予約できません。
回転できません **回転できません**	他のカメラで撮影した画像または動画を回転しようとしました。	回転できません。
実行できません	他のカメラで撮影した画像、動画、または再生できない画像を赤目補正しようとしました。	—
実行できません		
DISP を長押ししてマナーモードを解除してください	マナーモード時にフラッシュや音量を設定しようとしました。	マナーモード時は、フラッシュや音量の設定はできません。フラッシュや音量を設定したい場合は、マナーモードを解除してください。
接続できませんでした	パソコンまたはプリンターとの通信ができませんでした。	• パソコンまたはプリンターの電源が入っているか確認してください。 • パソコンまたは USB ケーブルの接続を確認してください。
プリンターエラー	用紙またはインクが切れているか、その他のプリンターエラーが発生しています。	• プリンターの用紙切れやインク切れがないか確認してください。 • プリンターの電源をいったん切ってから、再び入れてください。 • お使いのプリンターの使用説明書をお読みください。
プリンターエラー再開しますか？	用紙またはインクが切れているか、その他のプリンターエラーが発生しています。	プリンターの用紙切れやインク切れがないか確認してください。プリンターエラーを解消すると自動的にプリントが再開されます。確認後もエラーメッセージが消えない場合は **MENU/OK** ボタンを押して、プリントを再開してください。
プリントできません	他のカメラで撮影した画像またはプリンターが画像フォーマットに対応していない画像をプリントしようとしました。	• お使いのプリンターの使用説明書をご覧になり、プリンターが JFIF-JPEG、Exif-JPEG 形式の画像フォーマットに対応しているかご確認ください。対応していない場合はプリントできません。 • このカメラで撮影したデータですか？ このカメラで撮影したデータ以外はプリントできないことがあります。
プリントできないコマです	他のカメラで撮影した画像（）または動画をプリントしようとしました。	• 動画はプリントできません。 • このカメラで撮影したデータですか？このカメラで撮影したデータ以外はプリントできないことがあります。

困ったときは

資料集

用語の解説

DPOF（ディーポフ）：Digital Print Order Format の略。デジタルカメラで撮影した画像の中からプリントしたいコマや枚数などの「プリント予約」情報を、内蔵メモリーまたはメモリーカードに記録するフォーマットです。

EV：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムや CCD などの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することにより CCD に与える光量を一定にしています。CCD に与えられる光量が 2 倍になると EV 値は＋ 1、半分になると EV 値は− 1 変化します。

Exif（イグジフ）ファイル形式：Exif（イグジフ）は、電子情報技術産業協会（JEITA）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFF や JPEG との互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。さらにフォルダ構造、フォルダ名についての規定を含めて、DCF が JEITA 規格になっています。

JPEG：Joint Photographic Experts Group の略で、もとは画像圧縮の標準化を推進している組織の名称。そこで標準化したカラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。

Motion JPEG（モーションジェイペグ）：画像と音声の両方をひとつのファイルで扱うためのファイルフォーマット AVI（Audio Video Interleave）形式の 1 種類であり、ファイル内の画像は JPEG 形式で記録されています。パソコンでは下記のソフトで再生できます。

- **Windows**：Windows Media Player（DirectX8.0 以降）
- **Macintosh**：QuickTime Player（QuickTime3.0 以降）

WAVE（ウェイブ）：音声を保存するための Windows における標準フォーマットで、拡張子は“.WAV”です。記録形式には非圧縮記録と圧縮記録があります。本機では非圧縮記録を採用しています。パソコンでは下記のソフトで再生できます。

- **Windows**：Windows Media Player
- **Macintosh**：QuickTime Player（QuickTime3.0 以降）

スミア：撮影画面内に太陽やその反射光など非常に明るい輝点があるときに、画像に白いスジが写る CCD 特有の現象。

デジタルズーム：レンズを動かすことで、被写体を拡大して撮影する光学ズームとは異なり、カメラの内部処理で被写体を大きく見せて撮影する機能です。光学ズームと併用すると、より大きく撮影することができますが、撮影された画像の画質は劣化します。

ホワイトバランス：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。

SD メモリーカード、内蔵メモリーの標準撮影枚数 / 記録時間

標準撮影枚数及び撮影時間の枚数は目安です。実際の撮影枚数及び撮影時間は、撮影条件やメモリーカードの種類により変動します。また、液晶モニターに表示される記録枚数・時間は規則正しく減少しないことがあります。

画像サイズ	L 4:3		L 3:2		L 16:9		M 4:3		M 3:2		M 16:9	
画質モード	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL
記録画素数	3616 × 2712		3616 × 2400		3616 × 2048		2592 × 1944		2592 × 1728		2592 × 1440	
画像一枚のファイルサイズ	約 3.9 MB	約 2.4 MB	約 3.4 MB	約 2.2 MB	約 2.9 MB	約 1.8 MB	約 2.5 MB	約 1.3 MB	約 2.2 MB	約 1.1 MB	約 1.9 MB	約 950 KB
内蔵メモリー（約 47 MB）	12	19	13	22	16	26	19	38	21	42	25	51
SD メモリーカード 512 MB	120	200	140	220	160	260	190	380	220	430	260	510
SD メモリーカード 1 GB	250	400	280	450	330	530	390	770	440	870	520	1030
SD メモリーカード 2 GB	510	810	570	910	670	1060	790	1540	880	1720	1050	2060
SDHC メモリーカード 4 GB	1020	1630	1140	1820	1340	2130	1590	3100	1770	3440	2100	4130
SDHC メモリーカード 8 GB	2050	3270	2300	3660	2700	4290	3190	6220	3550	6910	4220	8300
SDHC メモリーカード 16 GB	4080	6500	4570	7260	5370	8520	6330	12350	7050	13720	8370	16470

画像サイズ		S 4:3		S 3:2		S 16:9		640	320
画質モード		FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	—	—
記録画素数		2048 × 1536		2048 × 1360		1920 × 1080		640 × 480	320 × 240
画像一枚のファイルサイズ		約 1.6MB	約 800KB	約 1.4MB	約 720KB	約 1.0MB	約 700KB	—	—
内蔵メモリー（約 47MB）		30	60	34	67	46	69	42 秒	1 分 24 秒
SDメモリーカード	512MB	310	600	350	680	460	700	7 分	14 分
	1GB	620	1210	700	1370	930	1400	14 分	28 分
	2GB	1230	2380	1400	2690	1870	2810	29 分	57 分 *
SDHCメモリーカード	4GB	2480	4770	2820	5390	3760	5640	58 分 *	114 分 *
	8GB	4980	9570	5650	10820	7540	11310	116 分 *	230 分 *
	16GB	9880	19000	11230	21480	14970	22460	231 分 *	457 分 *

* 動画を連続して記録する場合、画像サイズ 320 のときは 1GB、画像サイズ 640 のときは 2GB で自動的に撮影停止します。停止後に続けて撮影したい場合は、再度シャッターボタンを押してください。記録可能時間表示は約 1GB（320）/2GB（640）で計算されます。

主な仕様

システム	
型番	FinePix F70EXR
有効画素数	約 1000 万画素
撮像素子	1/2 型 スーパー CCD ハニカム EXR
記録メディア	• 内蔵メモリー（約 47MB） • SD/SDHC メモリーカード（弊社推奨品）
記録方式	• **静止画**：DCF 準拠（圧縮：Exif Ver.2.2　JPEG 準拠 /DPOF 対応） • **動画**：DCF 準拠（AVI 形式、Motion JPEG） • **音声**：WAVE 形式、モノラル
記録画素数（ピクセル）	• L **4:3**（3616 × 2712） • L **3:2**（3616 × 2400） • L **16:9**（3616 × 2048） • M **4:3**（2592 × 1944） • M **3:2**（2592 × 1728） • M **16:9**（2592 × 1440） • S **4:3**（2048 × 1536） • S **3:2**（2048 × 1360） • S **16:9**（1920 × 1080）
ファイルサイズ	別表に記載（→ 127 ページ）
レンズ	**名称**：フジノン光学式 10 倍ズームレンズ **焦点距離**：f=5.0mm ～ 50.0mm（35mm フィルム換算：約 27mm ～約 270mm 相当） **開放 F 値**：F3.3（広角）～ F5.6（望遠）
デジタルズーム	約 4.0 倍（光学 10 倍ズームと併用　最大約 40 倍）
絞り	F3.3/F6.4（広角）、F5.6/F11.0（望遠）（ND フィルタ併用）
撮影可能範囲（レンズ先端面からの距離）	**標準**：［広角］約 45cm ～∞、［望遠］約 2m ～∞ （マクロ）：［広角］約 5cm ～約 2.5m、［望遠］約 90cm ～約 2.5m （AF スピードアップ）：［広角］約 1m ～∞、［望遠］約 4m ～∞
撮影感度	AUTO/AUTO(400)/AUTO(800)/AUTO(1600)、ISO 100/200/400/800/1600/3200*1/6400*2/12800*2（標準出力感度） *1 最大記録画素数 M S、*2 最大記録画素数 S のみ
測光方式	TTL256 分割測光 マルチ、スポット、アベレージ
露出制御	プログラム AE、絞り優先 A、マニュアル
露出補正	－ 2EV ～ +2EV、1/3EV ステップ（**P**、**A**、EXR 時）

資料

システム	
シーンポジション	（高感度 2 枚撮り）、（ナチュラルフォト）、（ぼかしコントロール）、（連写重ね撮り）、（人物）、（美肌）、（風景）、（スポーツ）、（夜景）、（夜景（三脚））、（花火）、（夕焼け）、（スノー）、（ビーチ）、（パーティー）、（花の接写）、（文字の撮影）
手ブレ補正機能	光学式（CCD シフト方式）
顔キレイナビ（顔検出機能）	あり
シャッタースピード（メカニカルシャッター併用）	、P、A、、、SP（、、、、、、、、、）：1/4 秒～ 1/2000 秒、 ：1/8 秒～ 1/1000 秒、：3 秒～ 1/1000 秒、：4 秒～ 1/2 秒、 マニュアル設定時：8 秒～ 1/2000 秒
連写	・（連写）　連写速度：約 1.8 コマ / 秒、最大 3 コマまで ・（サイクル連写）　連写速度：約 1.8 コマ / 秒、シャッターボタンを放した直前の 3 コマまで ・（高速連写）　連写速度：約 4.8 コマ / 秒、最大 12 コマまで ・（高速サイクル）　連写速度：約 4.8 コマ / 秒、シャッターボタンを放した直前の 12 コマまで
フォーカス	・**モード**：センター固定 AF/ オートエリア AF/ コンティニュアス AF ・**AF 方式**：TTL コントラスト AF
ホワイトバランス	シーン自動認識オート / プリセット（カスタム / 晴天 / 日陰 / 昼光色蛍光灯 / 昼白色蛍光灯 / 白色蛍光灯 / 電球）
セルフタイマー	OFF、2 秒、10 秒
フラッシュ	**方式**：オートフラッシュ **撮影可能範囲（感度：ISO800 時）**：［広角］約 30cm ～約 4.2m ［望遠］約 90cm ～約 2.4m
フラッシュ発光モード	**赤目補正 OFF 時**：AUTO/ 強制発光 / 発光禁止 / スローシンクロ **赤目補正 ON 時**：赤目軽減 AUTO/ 赤目軽減＋強制発光 / 発光禁止 / 赤目軽減＋スローシンクロ
液晶モニター	2.7 型　カラー液晶モニター　約 23 万ドット（視野率　約 100%）
動画	640 × 480/320 × 240 ピクセル、30 フレーム / 秒、音声付き（モノラル）

システム	
撮影時機能	EXR モード（EXR オート、高解像度優先、高感度低ノイズ優先、ダイナミックレンジ優先）、ダイナミックレンジ、顔キレイナビ（顔検出機能）、赤目補正機能、パフォーマンス、フレーミングガイド、コマ NO. メモリー、フィルムシミュレーション
再生時機能	顔キレイナビ機能（顔検出機能）、赤目補正機能、マイクロサムネイル、トリミング、リサイズ、画像回転、スライドショー、マルチ再生、日付再生、ボイスメモ
その他の機能	PictBridge 対応、Exif Print 対応、PRINT Image Matching II 対応、言語設定（日本語、英語）、世界時計（時差設定）、マナーモード

入出力端子	
ビデオ出力	NTSC/PAL 方式（モノラル音声付き）
デジタル入出力	USB2.0 High Speed、MTP/PTP 接続

電源部、その他	
電源	充電式バッテリー NP-50（付属）、 専用 DC カプラー CP-50（別売）と専用 AC パワーアダプター AC-5VX を組み合わせて使用可能
バッテリー作動可能枚数の目安	**バッテリーの種類**　NP-50　**撮影枚数**　約 230 枚 CIPA 規格による。バッテリーは付属のもの、記録メディアは SD メモリーカードを使用し測定。 • **注意**：バッテリーの充電容量により撮影可能枚数の変動があるため、ここに示すバッテリー作動可能枚数を保証するものではありません。低温時ではバッテリー作動可能枚数が少なくなります。
本体外形寸法	99.3 mm × 58.9 mm × 22.7 mm（幅×高さ×奥行き）＊突起部含まず、奥行きは最薄部表記
本体質量	約 180 g（付属バッテリー、メモリーカード含まず）
撮影時質量	約 200 g（付属バッテリー、メモリーカード含む）
動作環境	**温度**：0℃～＋ 40℃ **湿度**：80％ 以下（結露しないこと）

バッテリー NP-50	
公称電圧	3.6 V
公称容量	1000 mAh
使用温度	0℃～＋ 40℃
本体外形寸法（幅×高さ×厚み）	35.4 mm × 40.0 mm × 6.6 mm
質量	約 18 g

バッテリーチャージャー BC-45W	
定格入力	AC 100 V ～ 240 V　50/60 Hz
入力容量	8.0 VA（100 V）　12 VA（240 V）
定格出力	DC4.2 V　550 mA
適合バッテリー	FUJIFILM 充電バッテリー NP-50
充電時間	約 150 分（+20℃において）
使用温度	0℃～＋ 40℃
外形寸法（幅×高さ×厚み）	91 mm × 62 mm × 23 mm（突起物を除く）
質量	約 67 g（本体のみ）

※ 質量・外形寸法は、仕向け国によって異なります。

索引

資料

[ま～や]

[ら～わ]

資料

各撮影モードで使用できる機能について

各撮影モードで使用できる機能は以下のとおりです。

		撮影モード	EXR				P		M			SP															動画
		AUTO	EXR AUTO	HR	SN	DR	P	A	M	N⚡	N	SP1	SP2	SP3	SP4	SP5	SP6	SP7	SP8	SP9	SP10	SP11	SP12	SP13	SP14	TEXT	🎥
マクロ		✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔												✔	✔	
フラッシュ	AUTO	✔	✔	✔	✔		✔							✔	✔		✔					✔	✔	✔[1]			
	強制発光	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔	✔[1]				✔	✔		✔				✔	✔	✔			✔	
	発光禁止	✔	✔	✔	✔	✔[1]	✔	✔	✔		✔[1]	✔	✔	✔	✔	✔[1]	✔	✔	✔	✔[1]	✔	✔	✔		✔[1]	✔	
	スローシンクロ			✔	✔		✔	✔						✔	✔			✔	✔								
	赤目 AUTO	✔	✔	✔	✔		✔							✔	✔							✔	✔	✔[1]			
	赤目強制発光	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔	✔[1]				✔	✔						✔	✔	✔				
	赤目 SLOW			✔	✔		✔	✔						✔	✔			✔	✔								
セルフタイマー		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
露出補正				✔	✔	✔	✔	✔																			
顔キレイナビ	OFF	✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔				✔	✔		✔	✔	✔	✔			
	ON	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔			✔	✔		✔	✔	✔	✔			
赤目補正		✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔	✔				✔	✔			✔	✔		✔	✔	✔	✔			
画像サイズ	AUTO		✔																								
	L	✔		✔			✔	✔	✔	✔	✔			✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	M	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	S	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
ピクセル	640																										✔
	320																										✔
画質モード		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	

			EXR				P					SP															
		AUTO	EXR AUTO	HR	SN	DR	P	A	M	N⚡	N	SP1	SP2	SP3	SP4	SP5	SP6	SP7	SP8	SP9	SP10	SP11	SP12	SP13	SP14	TEXT	動画
ISO 感度	AUTO		✔[1]							✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	
	AUTO(1600)	✔			✔	✔	✔																				
	AUTO(800)	✔		✔	✔	✔	✔																				
	AUTO(400)	✔		✔	✔	✔	✔																				
	12800[5]						✔	✔	✔																		
	6400[5]						✔	✔	✔																		
	3200[4]						✔	✔	✔																		
	1600				✔		✔	✔	✔																		
	800			✔	✔		✔	✔	✔																		
	400			✔	✔		✔	✔	✔																		
	200			✔	✔		✔[8]	✔[8]	✔[8]																		
	100			✔	✔		✔[8]	✔[8]	✔[8]																		
D-Rng ダイナミックレンジ	AUTO	✔[1]	✔[1]			✔	✔	✔		✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	
	DR100			✔[1]	✔[1]	✔	✔	✔	✔																		
	DR200					✔	✔	✔	✔																		
	DR400					✔	✔	✔	✔																		
	DR800					✔[9]																					
WB ホワイトバランス				✔	✔	✔	✔	✔	✔																		
フィルムシミュレーション	STD PROVIA/スタンダード	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	V Velvia/ビビッド	✔		✔	✔	✔[9]	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔														
	S ASTIA/ソフト	✔		✔	✔	✔[9]	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔														
	B B&W	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	SEPIA セピア	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
撮影モード							✔	✔																			
EXR モード			✔	✔	✔	✔																					
シーン選択												✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	

資料

			EXR				P		M			SP															
			EXR AUTO	HR	SN	DR	P	A	M	N	N															TEXT	
測光	マルチ	✔[1]	✔[1]	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]
	スポット			✔	✔	✔	✔	✔	✔																		
	アベレージ			✔	✔	✔	✔	✔	✔																		
連写	OFF	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔			✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	連写	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔			✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	高速連写 [6]	✔					✔	✔	✔								✔										
	サイクル連写	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔			✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	高速サイクル [6]	✔					✔	✔	✔								✔										
AF モード	センター固定	✔[1]		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔[1]	✔
	オートエリア			✔	✔	✔	✔	✔	✔																		
	コンティニュアス [7]		✔[1]	✔	✔	✔	✔	✔	✔																		✔
パフォーマンス	節電	✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	AF スピードアップ	✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔[1]	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	モニターパワーアップ	✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
ブレ防止モード		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔[3]	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
AF 補助光		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔[3]	✔[3]	✔	✔	✔[3]	✔[3]	✔	✔	✔[3]	✔[3]	✔	✔
操作音量 シャッター音量 シャッター音		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
デジタルズーム		✔	✔[3]	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔[3]	✔[3]	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	

1 各モードで自動的に設定されます。
2 **ON** 固定
3 **OFF** 固定
4 **画像サイズ**は M 以下に制限されます。
5 **画像サイズ**は S に、D-Rng **ダイナミックレンジ**は R100 に制限されます。
6 **画像サイズ**は S に、ISO **感度**は 400 以上に、D-Rng **ダイナミックレンジ**は R100 に制限されます。
7 顔キレイナビが ON のときはアイコンが で表示されます。
8 D-Rng **ダイナミックレンジ**の R200 以上が選択できるのは、**画像サイズ**が S または M でフラッシュ非発光の時となります。
9 **フィルムシミュレーション**で V **Velvia/ビビッド**または S **ASTIA/ソフト**設定時には、D-Rng **ダイナミックレンジ**は R400 以下に制限されます。

お取り扱いにご注意ください

ご使用前に必ずお読みください

安全上のご注意

このたびは弊社製品をお買上げいただき、ありがとうございます。

・ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
・お読みになったあとは大切に保管してください。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や障害の程度を次の表示で説明しています。	
⚠警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で説明しています。	
	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警 告

電源プラグを抜く

異常が起きたら電源を切り、電池・バッテリーや AC パワーアダプターを外す。
煙が出ている、異臭がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。
•お買上げ店にご相談ください。

水ぬれ禁止

内部に水や異物を落とさない。
水・異物が内部に入ったら、電源を切り、電池・バッテリーや AC パワーアダプターを外す。
そのまま使用すると、ショートして火災・感電の原因になります。
•お買上げ店にご相談ください。

風呂、シャワー室での使用禁止

風呂、シャワー室では使用しない。
火災・感電の原因になります。

分解禁止

分解や改造は絶対にしない（ケースは絶対に開けない）。落としたり、ケースが破損したときは使用しない。
火災・感電の原因になります。
•お買上げ店にご相談ください。

接続コードの上に重い物をのせたり、加工したり、無理に引き曲げたり、加熱したりしない。
コードに傷がついて、火災・感電の原因になります。
•コードに傷がついた場合は、お買上げ店にご相談ください。

不安定な場所に置かない。
バランスがくずれて倒れたり落下したりして、けがの原因になります。

移動中の使用はしない。
歩行中や自動車などの乗り物を運転しながらの撮影、再生などの操作はしないでください。
転倒、交通事故などの原因になります。

雷が鳴りだしたら金属部分に触れない。
落雷すると誘電雷により感電の原因になります。

指定外の方法で電池・バッテリーを使用しない。
バッテリーは極性（⊕⊖）表示どおりに入れてください。

電池・バッテリーを分解、加工、加熱しない。
電池・バッテリーを落としたり、衝撃を加えない。
リチウム電池やアルカリ電池は充電しない。
電池・バッテリーをショートさせない。
電池・バッテリーを金属製品と一緒に保管しない。
バッテリーを指定以外の充電器で充電しない。
電池・バッテリーの破裂・液漏れにより、火災・けがの原因になります。

⚠ 警 告

指定外の電池・バッテリーや AC パワーアダプターを使用しない。
表示された電源電圧以外の電圧で使用しない。
火災の原因になります。

バッテリーの液が漏れて、目に入ったり、皮膚や衣服に付着したときは、失明やけがのおそれがあるので、ただちにきれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受ける。

充電器で指定外の電池を充電しない。
他の充電式電池を充電すると、液もれ、発熱、破裂の原因になります。

バッテリーを廃棄する場合や保存する場合には、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープをはる。
他の金属物と混じると発火、破裂の原因となります。

メモリーカードは、乳幼児に触れさせないこと。
メモリーカードは、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠ 注 意

油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない。
火災・感電の原因になることがあります。

異常な高温になる場所に置かない。
窓を閉めきった自動車の中や、直射日光が当たる場所に置かないでください。
火災の原因になることがあります。

小さいお子様の手の届くところに置かない。
けがの原因になることがあります。

本機の上に重いものを置かない。
バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

AC パワーアダプターを接続したまま移動しない。AC パワーアダプターを抜くときは、接続コードを引っ張らない。
電源コードやケーブルが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

電源プラグが痛んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。
火災・感電の原因になることがあります。

本機や AC パワーアダプターや充電器を布や布団でおおったりしない。
熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

お手入れの際や長時間使用しないときは、電池・バッテリーや AC パワーアダプターを外し、電源プラグを抜く。

火災・感電の原因になることがあります。

充電終了後は充電器をコンセントから抜く。

コンセントにつけたままにしておくと火災の原因となることがあります。

フラッシュを人の目に近づけて発光させない。

一時的に視力に影響することがあります。
特に乳幼児を撮影するときは気をつけてください。

メモリーカードを取り出す場合、カードが飛び出す場合がありますので、指で受け止めた後にカードを引き抜くこと。

飛び出したカードが当たり、けがの原因になることがあります。

定期的な内部点検・清掃を依頼する。

本機の内部にほこりがたまり、火災や故障の原因になることがあります。

- 2 年に 1 度くらいは、内部清掃をお買上げ店にご依頼ください。

電源についてのご注意

※ ご使用になるカメラの電池の種類をお確かめの上お読みください。

電池・バッテリーを上手に長くお使いいただくため、下記をお読みください。使い方を誤ると、電池・バッテリーの寿命が短くなるばかりか、液もれ、発熱・発火の恐れがあります。

※ バッテリーは出荷時にはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。

※ バッテリーを持ち運ぶときは、カメラに取り付けるか、ソフトケースに入れてください。

■バッテリーの特性

- バッテリーは使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1 〜 2 日前）に充電したバッテリーを用意してください。
- バッテリーを長く持たせるには、できるだけこまめに電源を切ることをおすすめします。
- 寒冷地や低温時では撮影できる枚数が少なくなります。充電済みの予備バッテリーをご用意ください。また、使用時間を長くするために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。カイロをお使いになる場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。

■充電について

- 付属の充電器を使用して充電できます。充電は周囲の温度が 0℃〜＋ 40℃の範囲で可能です。充電時間については、本文をご参照ください。
- 充電は＋ 10℃〜＋ 35℃の温度範囲で行ってください。＋ 10℃〜＋ 35℃の温度範囲外で充電する場合、バッテリーの性能を劣化させないために充電時間が長くなることがあります。
- 0℃以下の温度では充電できません。
- 充電式リチウムイオンバッテリーは充電の前に放電したり、使い切ったりする必要はありません。
- 充電が終わったあとや使用直後に、バッテリーが熱を持つことがありますが、異常ではありません。
- 充電が完了したバッテリーを再充電しないでください。

■保存上のご注意

- 充電された状態で長期間保存すると、特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラや、バッテリーチャージャーから取り外してください。
- 涼しいところで保存してください。周囲の温度が＋ 15℃〜＋ 25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。
- 暑いところや極端に寒いところは避けてください。

ⓘ 危険ですので、次のことにご注意ください

バッテリーの金属部分に、他の金属が触れないようにしてください。

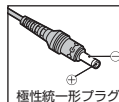
火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。

分解したり、改造したりしないでください。

- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
- 水にぬらさないようご注意ください。
- 端子は常にきれいにしておいてください。
- 長時間高温の場所に置かないでください。また、長時間、バッテリーで使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。長時間の撮影、再生には AC パワーアダプターをお使いください。

■小形充電式電池のリサイクルについて

小形充電式電池（リチウムイオンバッテリーまたはニッケル水素電池など）はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済みの電池は、端子を絶縁するためにセロハンテープなどをはるか、個別にポリ袋に入れて最寄りのリサイクル協力店にある充電式電池回収 BOX に入れてください。詳細は、「有限責任中間法人 JBRC」のホームページをご参照ください。http://www.jbrc.net/hp/

■AC パワーアダプターについてのご注意

極性統一形プラグ

必ず専用の AC パワーアダプター（別売、JEITA 規格、極性統一形プラグ付き）をお使いください。弊社専用品以外の AC パワーアダプターをお使いになるとカメラが故障する原因となることがあります。

- 室内専用です。
- DC 入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- DC 入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源を切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- AC パワーアダプターは、指定の機器以外には使用しないでください。
- 使用中、AC パワーアダプターが熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

ソフトウェアに関するご注意

本製品に同梱されている CD-ROM を音楽用 CD プレーヤーにかけないでください。耳に障害を負う恐れや、スピーカー、イヤホンなどを破損する恐れがあります。

■使用説明書について

使用説明書はパーソナルコンピュータ（以下パソコンといいます）と Windows、Macintosh の使用方法に関する基本的な知識をお持ちになっていることを前提として書かれています。パソコンと Windows、Macintosh の使用方法については、それぞれに付属のマニュアルをご覧ください。表示される画面やメニューが使用説明書と異なる場合がありますがご了承ください。

カメラをお使いになる前のご注意

ご使用になる前に必ず「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りをしましょう

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。

※ 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメモリーカードの転送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■製品の取り扱いについて

画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分にご注意ください。万一のときは、応急処置を行ってください。

- 皮膚に付着した場合：付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合：きれいな水でよく洗い流し、最低 15 分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■商標について

- xD- ピクチャーカード™は富士フイルム（株）の商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Windows の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- SDHC ロゴは商標です。
- その他の社名、商品名などは、日本および海外における各社の商標または登録商標です。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因になることがあります。

カメラの使用上のご注意

■避けて欲しい保存場所

次のような場所での本機の使用・保管は避けてください。

- 雨天下、湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ
- 極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い電磁場の発生するところ（放送塔、送電線、レーダー、モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■冠水、浸水、砂かぶりにご注意

水や砂は本機の大敵です。海辺、水辺などでは、水や砂がかからないようにしてください。また、水でぬれた場所の上に、本機を置かないでください。水や砂が本機の内部に入りますと、故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴がつくこと（結露）があります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、メモリーカードに水滴がつくことがあります。このようなときはメモリーカードを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、バッテリーまたは電池、メモリーカードを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- レンズ、液晶モニター表面などの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- レンズ、液晶モニター表面などは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質、変形したり、塗料がはげるなどの原因になります。

■海外で使うとき

- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社サービスステーションにご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因になることがあります。

メモリーカード / 内蔵メモリについてのご注意

■メモリーカード取扱上のご注意

- メモリーカードは、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- メモリーカードをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- メモリーカードの記録中、消去（フォーマット）中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メモリーカードが破壊されることがあります。
- 指定以外のメモリーカードはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因になります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 静電気を帯びたメモリーカードをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出したメモリーカードが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- メモリーカードにはラベル類は一切はらないでください。メモリーカードの出し入れの際、故障の原因になります。

■内蔵メモリーについて

- 内蔵メモリー内の画像は、カメラ本体の故障などによりデータが壊れたり、消失することがあります。大切なファイルは別のメディア（ハードディスク、CD-R、CD-RW、DVD-R など）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。
- 修理にお出しになった場合、内蔵メモリー内のデータについては保証できません。
- カメラ修理の際、内蔵メモリー内のデータを確認させていただく場合があります。

■メモリーカード、または内蔵メモリーをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのメモリーカード、または内蔵メモリーを使って撮影する場合は、カメラでフォーマットしなおしてください。
- カメラでフォーマットして撮影、記録すると、自動的にフォルダが作成されます。画像ファイルは、このフォルダ内に記録されます。パソコンでメモリーカード、または内蔵メモリーのフォルダ名、ファイル名の変更、消去などの操作を行わないでください。メモリーカード、または内蔵メモリーがカメラで使用できなくなることがあります。
- 画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
- 画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーまたは移動し、コピーまたは移動した画像ファイルを編集してください。

ソフトウェアのお問い合わせについて

1 お問い合わせの前にお確かめください。

ソフトウェアのインストール、FinePixViewer の使い方は使用説明書（本書）や FinePixViewer のヘルプから調べることができます。

2 富士フイルム製品 Q&A・お問い合わせ

(http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/index.html)、またはインターネットメニューの「サポート登録変更」から、ホームページで調べてください。

＊「サポート」をご利用いただくには画像ネットサービスへのユーザー登録が必要です。

3 巻末のお問い合わせ先に FAX、電話でお問い合わせください。

より早く正確な回答のために、ご質問用紙にご記入の上、下記の情報もご用意ください。

・カメラの機種名
・FinePixViewer のバージョンまたは CD-ROM のタイトル
・エラーメッセージ
・どのようなときにトラブルが発生しますか？ / トラブルが発生する直前の操作は？ / カメラの状態は？ / トラブルが発生する頻度は？
・ご使用の PC 機種名、OS バージョン、他の接続機器名

ご質問によっては回答するまでに時間を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

・ あらかじめ「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

アフターサービスについて

保証書

・保証書はお買上げ店に所定事項を記入していただき、大切に保存してください。

・保証期間中は、保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。保証規定に基づく修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または修理サービスセンターにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。

修理

■ 調子が悪い時はまずチェックを

本書の「困ったときは」をご覧ください。使い方の問題か、故障か迷うときは、FinePix サポートセンターへお問い合わせください。電話番号が巻末に記載されています。

■ 故障と思われるときは

富士フイルム修理サービスセンターまたは当社サービスステーションに修理をご依頼ください。富士フイルム修理サービスセンター、サービスステーションのご案内が巻末にあります。依頼方法は、次のページの中からお客様のご都合によりお選びください。

■ 修理ご依頼に際してのご注意

・本書巻末にある「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は、故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。

・修理料金の見積をご希望の場合には、「修理依頼票」の「見積」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理を進めさせていただきます。なお、見積は有料となります。

・落下·衝撃、砂·泥かぶり、冠水·浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合には、修理をお断りする場合もあります。

・内蔵メモリー内の画像は、カメラ本体の故障などによりデータが壊れたり、消失することがあります。 大切なファイルは別のメディア（ハードディスク、CD-R、CD-RW、DVD-R など）にコピーして、バックアップしてください。修理に出すときには、内蔵メモリー内のデータは消してください。 内部の基板交換等した場合、内蔵メモリー内のデータは保証できません。カメラ修理の際、内蔵メモリー内のデータを確認させていただく場合があります。

■ 修理部品について

・本製品の補修用部品は、製造打ち切り後８年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。ただしこの期間中であっても、部品都合等により、同等の製品に交換させていただく場合もあります。

・本製品の修理の際には、環境に配慮し再生部品や再生部品を含むユニットと交換させていただく場合がありま す。交換した部品およびユニットは回収いたします。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

個人情報の取扱について

当社は、お客様の住所・氏名・電話番号等の個人情報を大切に保護するため、個人情報保護に関する法令を遵守するとともに、電話問い合わせ時あるいは修理依頼時にご提供いただいたお客様の個人情報を次のように取扱います。

1. お客様の個人情報は、お客様のお問い合わせに対する当社からの回答、修理サービスの提供およびその後のユーザーサポートの目的にのみ利用いたします。
2. 弊社指定の宅配業者、修理業務担当会社、その他の協力会社に当社が作業を委託する場合、委託作業実施のために必要な範囲内でお客様の個人情報を開示することがございます。開示にあたりましては、盗難・漏洩等の事故を防止し、また当社より委託した作業以外の目的に使用しないよう、適切な監督を行います。
3. ご提供いただいたお客様の個人情報に関するお問い合わせ等は、FinePix サポートセンター等のお問合せ先、富士フイルム修理サービスセンターあるいは修理依頼先サービスステーション宛にお願いいたします。

修理の依頼方法は、下記の中からお客様のご都合に合わせてお選びください。

● FinePix クイックリペアサービス

「お預かり」・「梱包」・「修理」・「お届け」をワンパックにした、お預かりからお届けまでが最短 3 日の宅配修理サービスです。

- 申し込みは、以下から選択してください。

【クイックリペアサービス申し込み先】

インターネット ：
http://repairlt.fujifilm.co.jp/quick/index.php
ナビダイヤル：0570-00-9555
※ 受付時間：月～土 9:00 ～ 17:00（日・祝日・年末年始を除く）
※ PHS・IP 電話・NTT 以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、「0228-35-3586」に電話してください。
ファクス：0570-06-0070
申し込みに際し、「個人情報の取扱について」をご確認ください。

- 当社指定の宅配業者が、ご指定の日時にお預かりに伺い、修理完了品をご自宅までお届けします。
- 保証期間内外を問わず、全国一律のサービス料金が必要です。また有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

●富士フイルム修理サービスセンターへの送付修理

- ご依頼の際「修理依頼票」を記載の上修理依頼品に添付してください。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

● FinePix 特急 30 分修理（持込修理）

サービスステーションに直接お越しいただいたお客様を対象とした、30 分を目安にその場で修理を行う持込修理サービスです。故障の内容によっては、対応できない場合があります。

- 下記サービスステーションにて FinePix 特急 30 分修理を実施しております。

拠点	詳細
東京 大阪 名古屋 札幌 福岡	当社ホームページ http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/repairservice/servicestation/index.html をご覧ください。 ※仙台サービスステーションでは FinePix 特急 30 分修理は実施しておりません。

- その場で修理を行うことができます。後日引き取りもできます。
- 特急修理のために特別なサービス料金は不要です。ただし有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。
- 修理料金は、お引取り時にサービスステーション窓口でお支払いください。

●お買上げ店への持込修理

- 修理料金及びその支払方法については、お持ちいただいたお店にご確認ください。

資料

■ 修理に関する情報は

・修理サービス Q&A

http://repairlt.fujifilm.co.jp/faq/after/index.html

修理依頼方法、紛失した付属品の購入方法など修理に関するよくある質問と回答をまとめて掲載しています。

・修理納期検索サービス

http://repairlt.fujifilm.co.jp/repair/certificate.jsp

東京もしくは大阪のサービスステーションおよび富士フイルム修理サービスセンターへ修理依頼品を送付、あるいは持ち込みされた場合、修理完了予定日を検索することができます。

・FinePix 修理概算見積サービス

http://repairlt.fujifilm.co.jp/estimate/index.php

当社サービスステーションに直接修理依頼された場合の目安の修理料金を算出できます。

FinePix F70EXR 修理依頼票

※予め「個人情報の取扱について」をご確認ください。
※本紙は拡大コピーしてお使いください。※下表の□は、該当する項目にチェック（✔）を入れてください。

フリガナ		電話番号	
お 名 前		FAX番号	
ご 住 所	〒　　　　－		
ボディ番号（機番） 保証書あるいは本体底面に記載してある8桁の番号です。 修理お問合せ時にご連絡ください。	NO.		
修理品への添付	□保証書　・　□メモリーカード　・　□バッテリー		
□（　　　　）　□（　　　　） □（　　　　）　□（　　　　）			
見 積	□要（修理金額　　　　円以上見積り）　・　□不要		
見積連絡方法	□電話　・　□FAX		
故障症状（故障時の様子）			
ご購入時期	20　　年　　月		
修理履歴	□初回　・　□再依頼（□同一症状　・　□別症状）		
発生状況 発生頻度	□開始時のみ　・　□いつも　・　□時々（　　日に　　回）		
発生状況 動作モード	□再生時　・　□撮影時　・　□ショックを与えると		
発生状況 他機との接続	□無　・　□有（接続機　　　　）		
発生状況 使用電源			

富士フイルム株式会社

●本製品に関するお問い合わせは…

※予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

富士フイルムFinePixサポートセンター

ナビダイヤル 0570-00-1060 / 携帯電話・PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は 0228-35-1088

市内通話料金でご利用いただけます
⇒呼び出し音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

月曜日～金曜日　午前9：00～午後5：40　土曜日　午前10：00～午後5：00　日・祝日・年末年始を除く

FAX　0570-06-7555 受付時間：24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）

●本製品の関連情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://fujifilm.jp/　※弊社ホームページの自己解決に役立つ「Ｑ＆Ａ検索」もご利用ください。

●修理の受付は…

※詳細は本文中の「アフターサービスについて」をご覧ください。また、予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

■修理のご相談受付窓口　富士フイルム修理サービスセンター

ナビダイヤル 0570-00-0081 / PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は 0228-35-3586

⇒呼び出し音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

月曜日～金曜日　午前9：00～午後5：40　土曜日　午前10：00～午後5：00　日・祝日・年末年始を除く

FAX　0570-06-0070 受付時間：24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）

■修理品ご送付受付窓口　富士フイルム修理サービスセンター

〒989-5501 宮城県栗原市若柳字川北中文字95-1 / TEL：0228-35-3586

▶ お急ぎの場合は、全国どこからでも

【FinePix クイックリペアサービス】：お預かりからお届け迄が最短3日の宅配修理サービス

インターネット：http://repairlt.fujifilm.co.jp/quick/index.php / ナビダイヤル：0570-00-9555

■修理品お持込窓口　全国６箇所のサービスステーション（東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・福岡）でも修理をお受けします。

サービスステーションにつきましては、当社ホームページhttp://fujifilm.jp/をご確認ください。

▶ お近くにサービスステーションがあれば

【FinePix 特急修理30分】： 30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービス

※ 故障の内容によっては、対応できない場合があります。

●本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…

お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日 午前9：30～午後5：00） TEL 03-5786-1712

Printed in